

かに  
KANI



73  
萬人

## 表紙のことば

癌と云う病気の概念がはっきりしたのは、19世紀中葉以後の事であるが、癌と云う言葉自体は、東西ともに可成古くから行なわれている。英仏語のCancerは、ラテン語のままで、蟹の意味を兼ねている。そして、このラテン語はまたギリシャ語のカルキノスから来ている。2,400年前のギリシャのヒポクラテスは、すでに病気としてのカルキノスの特徴を書き記したと云う。西紀200年に死んだローマの医師ガレノスは、カンケルを「時に潰瘍を伴う悪性の極めて硬い腫瘍」と定義した。蟹の字をこう云う病気の名にしたのは、昔から珍しくない乳癌の恰好が、蟹を連想させたからであろう。赤黒い、凹凸のある、醜いその外観は、まさに蟹の甲羅そのものだが、腋の下の淋巴腺まで病気が拡がり、しかも、その間を繋ぐ、淋巴管までおかされた、乳癌の末期の姿は、蟹の鉗やその足の節々をさえ、連想させる。

一方癌の字は、中野操氏の考証によれば、南宋の医書にすでに用いられているそうだ。病だれの中の品山は岩石の意味で、やはり皮膚癌や乳癌の外観からの表徴文字と察せられるが、この字は癌の組織の持つ大きな他の特徴——他の組織と比較にならぬ程、堅い性質——まで表示し得て、妙である。

表紙の絵は「がざみ」と呼ばれる「わたりがに」の一種で、太平洋岸の日本近海に普通の、食用蟹の一つである。海底の砂に巧にもぐり込み、しかも、海を渡って遠くにまで行く。癌の持つ周囲組織へのもぐりこみ(浸潤)や、方々への飛び火(転移)は、この蟹の性癖で巧に表現されている。

題字の達筆は藤井理事長の揮毫である。編集部の苦心の作と察せられるこの加印は、草書では「かに」となる。仁術に加えるもう一つのもの——一般人の理解と協力——なくしては、癌撲滅の大目的は達成し得られない事を、言外にうたっているものと云えようか。蟹の周囲のあみ目の一つ一つは癌の細胞である。

(久留 勝)

# 加仁 第11号 目次

## 卷頭言

迷宮	長沼 弘毅	2
特集・塙本憲甫先生 追悼記		8

昔の話	中原 和郎	10
仁を行なった人 塙本博士	鶴飼 信成	12
塙本先生を想う（海外から）	エリック・サムウエル	14
	ファン・ゴメス・ロペス	18
	A. ウインクラー, R. ルント	20
座談会 塙本先生を偲んで		22
山中 和 田崎瑛生 塙本哲也 伊藤一二		

## 冬瓜の記

奇妙な幻覚	今 東光	40
話題の研究から		
第11回国際癌会議に出席して	三輪 潔	42
あしあと……がんと胎児蛋白	向島 達	45
横顔	広明竹雄	48
質問コーナー……脳腫瘍	高倉 公朋	50
ニュース		52
ご寄付芳名録		58
財団法人がん研究振興会役員、評議員名簿		64
編集同人名簿、あとがき		



◆表紙絵解説 久留 勝  
◆表紙構成 長尾みのる  
◆カット 関谷 猶二

☆卷頭言☆

迷

宮

長沼弘毅



わが国でも、要塞とか城廓とかいうところには、はいったら最後、そこから出られない秘密の通路とか部屋（いわゆる迷路、迷宮）のようなものがあったという話を、よく聞かされている。これは、稀れに攻撃のためのものもあるが、大体のところは、防禦とか逃亡（脱出）とかいう立場から工夫研究されたものである。現に、現存の名古城には、秘密の地下道があつて、それを伝わってゆくと、河のなかに出るということが、まことしやかに喧伝されたことがある。

密室とか秘密の通路（迷路）とかいうのだから、その本来の性質上、ごく少数の人間にしか知らされないのは、当然のことである。そこで、その建物とか通路とかを構築した技術家が、それを完成した際、「褒美をとらせる」というご沙汰があつたので、しかるべきところに出ていってみたところ、いきなり、バッサリと首を掻ねられてしまつたとか、そ

れきり出て来なかつたというような話も伝わつてゐる。秘密の漏洩されるのを、未然に防  
じうと、いう意図から出たものであることは、いうまでもない。

もともと、迷宮といふことは、ギリシア神話から出でてゐるらしい。ラビリンス（英語  
で、Labyrinth、ギリシア語で、ラビュリントス）というのが、それである。ブルフィー  
ンチの「ギリシャ・ローマ神話」には、つきのように出でてゐる。

クレタ（エーゲ海沿岸）が、ミノス王（Minos）に支配されていた頃、アテナイ人は、  
王に納める生贋のために、ひどい裏切り目をみていた。この生贋といふのは、七人の少  
年と七人の処女から成つていて、ミノタウロスという怪物の餌食にするため、毎年送  
られていたものであった。ところで、このミノタウロスという怪物は、非常に獰猛な  
性質の獣で、体は牡牛、頭は人間といったもので、ダイダロス（Daedalus）といふ、  
その道の名人がつくつた迷宮（迷路ともいふ——これが、ラビリンス）のなかにおか  
れていた。この迷宮は、極めて巧みな組み立てで、誰でも、そのなかに閉じ込められ  
ると、どうしても、その出口をみつけることができなかつた。この迷宮のなかに、ミノ  
タウロスは、恐ろしい唸り声をあげながら、人間の生贋を待つてゐるのである。

この迷宮は、数知れずの曲りくねつた廊下や横道が、みんな通じ合つて、はじまり  
も終わりもないようなものであった。テーゼウス（Theseus）は、この災難から、國  
民を助けてやろうと決心し、自分も生贋の一人となつてクレタに乗り込む。少年と処  
女等が、ミノス王と面会したとき、王の娘のアリアドネ（Ariadne）が、その席に連  
なつてゐる間に、深くテーゼウスにおもいを寄せるようになり、彼のほうも、彼女の  
恋に報いるよくなつた。アリアドネは、彼に、怪物を突く剣と、一つの絲球（いとばり）  
を与えた。この絲球さえあれば、迷宮の出口が、わかるのであった。

テーゼウスは、首尾よく怪物を仕とめ、迷宮から逃げ出すことができた。

右が、ギリシアのラビンスの由来なのだが、これは、ひとり、ギリシアだけではなく、あちこちに散見している。まあ、その例を、若干あげてみると、つきの通りである（「アリタニア」による）。

一 エジプト学 (Egyptologist) の「*εγγύητης της λίμνης*」、ラビンスというのは、「湖の入口にある神殿」 (The temple at the entrance of the lake) となる意味である。ヘロドトスによると、建物は、單一の壁に取り込まれていて、十二の庭と三千の部屋とから成っており、この三千の部屋の半分は地上、半分は地下にある。そして、屋根は石造、壁上には、彫刻が施してある。片側には、諸神のピラミッドが四千建っている。ヘロドトスは、地上の部屋のある部分には、はいることを許されたが、地下には、諸神の墓があるということで、はいることを許されなかつた。これ等の諸神は、いずれも、ラビンスをつくった神である。

二 クレタ人の間では、ラビンスは、エジプト人のプランによって、ダイダロスが築造したものである、とされている。それは、怪物ミノタウロスの伝説があるので、有名になつてゐるが、その実在性ということになると、かなりの疑問がある。古い歴史家の中には、それはクノソス (Knossos) の近くに位置し、当時のコインに彫られていて、いう説をなす者もいるが、近年における発掘では、それらしきものは現われてはいない。また、他の学者は、それは、ゴルティナ (Gortyna) 付近にあり、曲りくねった通路とか、その近所に部屋があつたとかいつてゐるが、これまで、その実在性については、古くから、論争が絶えない。

三 レムノス島にあるもの。——エジプトにあるものと、その構造が似ており、部屋は、百五十あるといわれてゐる。

四 イタリーにあるもの。——これは、ポルセナ (Porsena) の墓場の底辺 (低い部分) にある多くの部屋が、一層混み入つてゐる。

五 プリュー (Pliny) は、ラビリンスとは、地上またはペイヴメントの上に、よく、描かれて、いる粗雑な画のことであるといつてゐる。

中世紀においては、ラビリンスとかメイズ (maze——迷宮の別語) は、よく、フランスの大聖堂 (Cathedral) の床の上に刻まれており、建築家の名も、そのデザインのなかに織り込まれていたらしい。例えば、フランス北部のソム河 (Somme) に沿った都市アン (Amiens) にあるもの。——これは、十九世紀に破壊されたが、後に（時期不明）その模写が再建された。そのとき、詩が刻まれたが、この詩のなかに建築家の名前が含まれていた由である。この中央部には、白い大理石があつて、その上には、ビショップの姿や三人の建築家の姿がみえたということになっているが、こういう中世紀の迷宮の実在性についての徹底した研究は、まだ行なわれていない。

なお、参考までに、園芸学 (Gardening) の方面で、ラビリンスまたは迷宮といふことはが使われることがある。これは、垣根や植木にかこまれた錯綜した通路網のことで、その中心部や出口をみつけねるとがむずかしいものを指している。これは、園芸学の、古い地理的スタイルの遺物とでもいふべきものである。もひとと通俗的には、正式にいふば、細道 (alley) と呼ばれるべき通路であつて、平行して走る垣根によりおなじ幅員にされて、しかも、この垣根は、あまりにも、びっしり厚く並んでるので、それをみ通すことができないものを指してゐる。

また、ある場合には、細道だけで構成されているデザイナもある。その著例は、ondon・アンド・ワイス (London and Wise) による、一七〇六年に、出版された書物に出でている。もひとつ、そのものになると、一七四二年に、スイス人によつて出版された書物がある。それによると、「六つのむずかしい入口を持つたラビリンス」がある。この六つの入口のうち、中心部に通へるのは、たゞた一つしかない。イギリスのハムpton・カート宮殿 (Hampton Court palace) の庭にある迷宮は、

イギリスでは、やゝとも巧緻のものとされてゐるが、これは、ウェリアム三世（一六八四～一七〇二）の統治下につくられたものである。これは、垣根と細道方式でつくられたもので、シノギ(hornbeam—山樺科の落葉樹)が、植えられてゐるが、これは、といふじいは、至聖所(hollies) ハイツイ(yews)におき換えられたりしている。中心部にすすむ鍵としては、入口が左、まや、左にゆき、それから右へゆき、その後は、やゝと左にゆくことである、と信じられてゐる。

ローワークストン(Lowestoft)の近くのソマーレ頓・ホール(Somerleyton Hall—イギリス、サフォーク州の港市にあり)の迷宮は、シモン・トーマスのデザインになるが、そこには、一八八〇年頃、イチイの木が植えられていた由である。テオズボールド公園(Theboldse Park)の迷宮は、ソールズベリー伯爵からジェイムス一世に譲られたものだが、十八世紀につくられたものは、ウェーブルトン・ハウスにあつたと伝えられてゐる。

以上で、迷宮に関する常識論を終えるが、やうやくの英語の辞書をみると、ラビリンスとマイズとは、ほんと同意語であつて、大体、いわゆるよくな訳が出でてゐる。

—become shrouded (be wrapped) in mystery.

—develop into a great mystery.

—become more complicated (mysterious).

これら等は、いやれど、解決不能になつた事件の代名詞に使われてゐるとおもひよい(「迷宮」の「迷」を略して、「お宮入り」とも云ふ)。

ぼくは、東洋に、これに相当するいとなばないものかと、いろいろ手をつくしてみたが、発見したのは、「迷様」といういふはだけであった。では、この「迷様」とは、どんなものか？ 池田四郎次郎著「故事熟語大辞典」によると、—

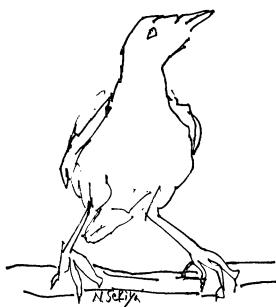
隋の煬帝（六〇四—六一八）の建てし樓。この出所としては、「大業拾遺記」がある。  
樓上、四賓帳を張り、一に名づけて、「散春愁」とい、二に名づけて、「醉忘歸」とい、三に名づけて、「夜酣香」とい、四に名づけて、「延秋月」という。  
また、「迷樓記」によると、

項昇能宮室を構う。年を経て千門万牖成る。工巧の極みなり。煬帝、これを幸して、大いに喜び、左右を顧みていう。「真仙をして、その中に遊ばしむるとも、亦、自ずから迷うべき也。これをして迷樓といふべし」

こうなつて來ると、「迷樓とは、西洋でいう迷宮のことである」といつても、よきそ  
である。

ところで、ぼくは、この迷宮につき、警視庁、大学、新聞社等に対して  
——いつ頃、なんという事件から、「迷宮入り」ということばが使われたのか？

という質問を出したが、その回答は、どうしても、手に入れることができなかつた。  
これは、問題が、「迷宮」なのだから、当然のことといえば、当然かもしれないが、なん  
としても残念なことである。



## 特集

### 塙本憲甫先生追悼記



本誌編集顧問、当会理事の塙本憲甫先生の  
追悼の特集を計画しましたところ、次の諸先  
生方からの玉稿を掲載することができました。  
(敬称は省略させていただきます)

国立がんセンター総長 中原 和郎

成蹊大学教授 鶴飼 信成

国際放射線学会代表

エディンバラ大学放射線科教授

エリック・サムウエル

国際放射線学会会長

ファン・ゴメス・ロペス

WHO癌研究班医務官

A・ワインクラー

同科学担当官 R・ルント

## 塚本憲甫博士 略歴

昭和47年5月、世界保健機関第二五回総会日本政府代表。

昭和48年10月、第三回日本癌学会会長。  
昭和49年6月7日、逝去さる。

明治37年9月16日、東京において農博塚本道遠氏の三男として出生。  
大正12年3月、青山学院中学部卒業。  
昭和2年3月、静岡高等学校卒業。  
昭和6年3月、東京帝国大学医学部卒業。  
同大附属病院稻田内科入局  
昭和9年9月、財団法人癌研究会附属康楽病院放射線科兼内科医員。  
昭和22年12月、医学博士。  
昭和33年4月、第一八回日本医学放射線学会会長。  
昭和33年10月、放射線医学総合研究所長。  
昭和34年12月、国際連合科学委員会日本政府代表。  
(以後九年間一一回に亘り同委員会に出席)  
昭和42年9月、国立がんセンター病院長。  
昭和43年10月、第一二回国際放射線医学学会会長。  
昭和45年9月、国立がんセンター総長。

亡くなられた時は、国立がんセンター総長の他▽原子力委員会専門委員▽原子爆弾被曝者医療審議会委員▽医療関係者審議会委員▽医師研修審議会委員▽日本学術審議会専門委員▽日本癌学会評議員▽日本医学放射線学会名譽会員及び評議員▽日本核医学会評議委員▽日本化学療法学研究会評議委員▽日本医学放射線学会理事▽国立遺伝学研究所評議員会評議員▽原子力委員会参与▽財団法人癌研究会評議員▽日本対ガン協会理事▽放射線影響協会理事▽がんの子供を守る会治療研究委員▽日本アイソトープ事業協議会理事▽W H O 癌諮問委員会委員▽W H O 胃癌情報センター所長▽W H O 国際癌研究機関理事などを兼務された。

日本はもとより国際的な立場で、がん研究、がん対策の分野に大きな足跡を残され、從三位勲一等瑞宝章を授与された。

# 昔の話



国立がんセンター総長

中原和郎



昭和九年癌研究所と附属病院（当時康楽病院といつてはいた）が創設された時、放射線科  
々長として山川保城君がいた。この人は大正七年頃から東大病院の小石川分院でレントゲ  
ン装置を据へて主として婦人科のがんの治療をやつてゐた経験者である。しかもその頃三  
井報恩会から五グラムといふ大量のラジウムが癌研に寄附され、それをうまくがんの治療  
に使用する技術的責任者が山川君だった。物理学者の三輪光雄君（西川正治先生門下）の  
参加を得て、五グラムのうち一部は水に溶かしてエマネーションの製造に當て、残りは元  
素のまま使ふ方針で、とにもかくにもラジウム療法の運転が出来るところに漕ぎつけた  
のである。

ところで一つの問題があった。それは康楽病院が、放射線科・外科・内科・婦人科とい  
ふ四科で組織されたため、婦人科領域のがんは原則的に放射線科では扱はないことになり、

ラジウム療法の半分は婦人科に行く形になつたことである。山川君にはそれが痛く不満であつたらしく、それからあらぬか病院内では種々なトラブルが絶へなかつた。

塚本憲甫君が癌研病院にこられたのは丁度その頃で、いはば創業時代四人で不安定な時期であったのである。当時病院長であった稻田龍吉先生が、若い門下の中から特に塚本君を選んで癌研病院放射線科によこされた意図がどこにあつたかは察するに難くないであろう。塚本君はよくバッファーとしての役目を果し、稻田先生の期待をうらぎらなかつた。これは塚本君の人となりを物語る大きなエピソードである。

癌研が戦災で一時解散になつたとき、塚本君が東大耳鼻科教室に入つて勉強されたことも私は立派だったと思ふ。塚本君はもともと内科出身だから、耳鼻科領域の放射線療法をやるには、一度正式にその方をやり直して置くべきだといふ彼の良心的な行動だつたと思はれる。

終戦後日ならずして築地の旧南胃腸病院に形ばかりの癌研病院が再発足し、それから昭和三十二、三年頃西巣鴨が改修され、研究所と放射線科とがそこに帰つてから以降のこと

は「近代史」になるので、昔の話はここで打ち切る。

塚本君と私の生涯は、創立当時の癌研で合ひ、戦災で分かれ、癌研復興でふたたび合ひ、君の放医研出向で又分かれ、更に国立がんセンターで三たび合流した。職場を同じくする度に、私は患者第一主義の眞の医師の尊い姿を彼に見た、自分自身の研究は二の次ぎであつた。

がんセンターでは塚本君の在任後半は、総長として私の上司であつたが、昔からの関係もあつてか、研究所長としての私には特別の配慮をしていただいた。思ひきや、そのがんセンターで三度目の、そして最後のお分かれをしなければならないことにならうとは！

# 仁を行なつた人 塚本博士



成蹊大学教授

鶴 飼 信 成

塚本君には、およそ病氣に關することならなんでも相談した。どんな小さなことでも、どんな面倒なことでも、どんな時間に電話をかけても、君はいつでも、ああそうと静かに聞いてくれた。そうして何かおかしなことをいっては、くっくっとのどにかかるような彼独特的の笑い声で、われわれの憂うつを吹きとばしてしまう。

ワシントンのホテルに朝早く家内から電話がかかって、次男が爆発事故で大怪我をしたといって来たときにも、とにかく塚本先生に相談しなさいというのが精一杯だった。君のおかげで次男は失明を免がれ、元氣で働いている。いくら感謝しても、し切れないほどだ。

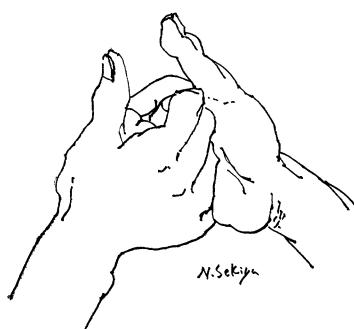
奥さんの年子さんが、なかでも君の仁術の最大の受益者だったに相違ない。そうしてそれだからこそ、年子さんは実に静かな美しい寝顔を見せて、君のあとを直ぐ追つていかれ

たのだと、つくづく思う。しかし君にとつては同時にすべての患者が、君の助けを必要とする病人であった。

昔、青山学院の中学部で、君と一緒に勉強していた頃、僕の書いた答案が乙をもらつたことがある。君は早速、生物の先生をつかまえて、この点数は間違っていると、わざわざ標本をもって来てプロテストしてくれたのには、僕もびっくりした。

一緒に日比谷公会堂で聞いた音楽会も忘れない。『シェーラザーデ』のロマンチックな音楽や、柳兼子女史の渋いアルトの歌声をたっぷり聞いたあとで、下馬の家へ行つてレコードをかけた。やっぱり生の音楽の方がいいね、などといって、グラスを傾けていた彼の姿が目に浮ぶ。

君の余徳のおかげで今でもがんセンターの多勢の先生に、何かにつけ親切にして頂いているのはほんとうにありがたい。がんの征服は、君の一生をかけた大事業だった。がんよ、一日も早く降伏しなさい。



---

### Kempo Tsukamoto

Kempo Tsukamoto is dead—the great distance between Edinburgh and Tokyo had long been bridged in the ceaseless flow of exciting and communicative letters that came from his pen in Tokyo. They brought the intuitive wisdom, courtesy and charm of the East. Yet never once was there any hint or complaint about his ill health reached us so that the news of his death startled us and came as a profound shock to his very many friends in the United Kingdom.

I first met Kempo at the Eleventh International Congress in Rome, when I realised he would be President of the 12th International Congress and would in due course be President of the International Society.

My admiration for this man over the next eight years grew and his conduct throughout all the years he was in office in the International Society of Radiology was exemplary. Kindness and courtesy and his thought for others abounded from Kempo Tsukamoto and his crowning triumph in International Radiology was the success as President of the 12th International Congress in Tokyo. No one single person can nowadays organise such a congress on such a scale, but it was a measure of his ability and the esteem that he was held in his own country that he built a formidable team of Japanese radiologists, young and old, around him who under his guidance made this 12th Congress an outstanding success.

In the organisation of the World Health Organisation Kempo Tsukamoto represented both the International Society and the International Cancer Congress.

---

His wise and sagacious councils were always in demand and his presence at these meetings will be missed.

A personal memory tinged with admiration will always be of the diligence and application with which he undertook the task of becoming fluent in spoken and written English language, a not inconsiderable task for a man of his age—yet he achieved this with such success that he became a successful and lucid speaker and writer. Perhaps his only frustration was that the enormous sense of fun that he possessed could not be expressed in English as readily as he would wish. Those who worked long hours with him on various international problems know how tense moments could be lightened by his flashes of humour.

The successful contribution that he made to the establishment of the reference centre on Gastric Cancer for the World Health Organisation widened his circle of friends and those of us who were fortunate enough to send our young colleagues to Japan on this course realised on their return how he had fired their enthusiasm for his devoted cause, namely, the diagnosis and cure of cancer.

In the field of International relations ; in the world of scientific medicine and on the broader canvas of humanity, and personal relationships, the memory of this kindly man will remain evergreen.

ERIC SAMUEL

# 塚本先生を想う

国際放射線学会代表  
英國エディンバラ大学放射線科教授

エリック・サムウエル  
(スコットランド)

心を奮い立たせ、しかも話題に富んだ手紙が間断なく舞い込み、エディンバラと東京という巨大な距離に橋が懸けられて久しい——だが、東京でこれらの手紙を認めた主、塚本憲甫はもはやこの世にいない。東洋の直観的英知、礼讓そして魅惑がこれらの手紙によつてもたらされたのであった。ではあるが、健康を害していることを暗示したり、あるいは症状を訴えるというようなことはかつて一度もなかつたのである。従つて、先生の訃報はわれわれにとって全くの驚きであり、英國にあまたいる友人にとって非常な衝撃であった。私が初めて先生にお会いしたのは、ローマで第十一回国際放射線会議が開催され、先生が第十二回国際放射線会議の議長になられ、そしてやがて国際放射線学会の会長となられたことを知った時であった。

あれから八年、私の先生への賛美は募るばかりであり、国際放射線学会の要職にあられた全期間を通じ、先生の行動は他の軌範となるものであった。

先生から溢満する懇切さと礼讓、他人に対する思慮、そして国際癌学会における輝かしい業績によって、先生は東京で開催された第十二回国際放射線会議の会長を見事に務めら

れのであった。いかなる人も、今日あのような国際会議を、あのようなスケールで組織することは出来ないのであるが、自分の周囲にいる日本のがん研究者で恐るべき強大なチームを編成され、このチームが先生の指導のもとで第十二回国際放射線会議を成功に導かれたのであった。

WHOの組織では、先生は国際放射線学会と国際放射線会議の双方の代表を務められていた。先生の賢明にしてしかも時宜を得た諫言は絶えず人の求めたものであり、先生の死去は両学会にとって打撃となる。

私の先生への回想は先生への賛美と綾なしているが、英語を流麗に書き、そして流暢に話すべく——先生の年齢の人たちにとって並み大抵の事ではないが——払われた精励さと傾注ぶりは、私の先生への回顧と切り離しがたいものとなる。ともあれ、この努力が結果し、明快にして立派な英語をお話しになり、お書きになるようになつた。おそらく先生が唯一にフラストレーションを感じておられたことは、先生のすばらしいユーモアを自由滑脱に表現できぬいいらだしさであったと思う。いろいろな国際的な問題で先生と共に長時間働いた者は、緊張の瞬間が先生の時宜を得たユーモアによっていかに和らげられたかを知っている。

胃がんの研究のためのWHOレファレンス・センター設置に対する先生のすばらしい寄与によつて、先生の友人もその数が増え、われわれのうち幸にも若い同僚を日本に送り得た者は、先生が心身を犠牲された大目的、すなわちがんの診断と治療に、いかに自分の精神を傾注されていたかを、帰國者からの報告によつて知っているのである。

国際的な関係の領域、科学的医療の分野、そしてさらに広くは人間性というカンバスに綾なすこの思いやり深き人の追憶のときわの縁は、とこしあに変ることがないであろう。

---

The death of Professor Tsukamoto has constituted an irreplaceable loss in the world of Radiology. His attribute to the speciality has been of great consequence and the tasks which have been carried out by him personally and under his direction in the field of Cancerology have contributed to allay the painful effects of a disease which assails an important percentage of mankind. Therefore, he deserves respect from all doctors and especially from those of us who, like him, work in this field of Medicine.

We Spanish Radiologists deeply regret such an invaluable loss, when his knowledge and experience was still hoped to yield new fruits for the benefit of Science which would further heighten the standard of Radiology.

Personally, I want to say that Professor Tsukamoto was a man who earned admiration and respect on account of his human qualities, as I was to discover ever since our first acquaintance when he was elected in Rome, in 1961, as President of the XII International Congress. Later contacts led to strengthen this bond of friendship, at the same time as my affection for him grew.

As President of the International Society of Radiology, and on behalf of the Radiologists I represent, I share my feelings with the Japanese colleagues on the death of such a magnificent scientific figure.

I feel sure that his life and work will be an example and stimulus for all of us to pursue the path along which he, so brilliantly, advanced.

Dr. Juan Gómez López

Madrid, January 1975

# 塚本先生を想う

国際放射線学会会長

ファン・ゴメス・ロペス

(スペイン)

塚本先生の死去は放射線医学の世界にとって掛け替えのない損失となつた。先生はこの専門分野に対して偉大な寄与をなされたのであり、癌治療学の領域において先生個人ならびに先生の御指導のもとでなされた業績の数々は、人類の多く苦しむがんという疾病的苦痛を鎮静すべく大いなる寄与となつたのであった。従つて、先生には、全ての医師、特に先生のように医療の分野に携わるわれわれの敬意を受けるに充分な功労があつたのである。

塚本先生は、その知識と経験により、科学のため新たな業績をなし遂げられてゆくものと期待されていたのであり、先生の死去という計り知れない喪失に対して、われわれスペイン放射線学者は心から哀惜の意を捧げたい。

私が個人と申しあげるならば、私が初めて先生にお近づきになれたのは一九六一年ローマであつて、先生が第十二回国際放射線会議の会長に選出された時であり、それ以来私が気が付いたことは、先生がその人間性あふれる資質によって賞讃と尊敬をかち得られた、ということである。それ以来、先生との友情が深まり、同時に先生への私の敬愛も増していった。

国際放射線学会の会長として、さらに私が代表する放射線学者に代わって、この偉大な科学者の死を日本の同僚の皆様と共に悲しみをわかちたいと思う。

先生の御生涯、そしてその業績は、先生が才氣從横に前進された道程の後を追つて行くわれわれ全ての者にとっての軌範となり、そして刺激となるものと、私は確信している。

---

¶ Dr Kempo Tsukamoto

We were deeply grieved to learn of the, for us, unexpected death of Dr Kempo Tsukamoto. Our "official" association with him commenced in 1969 when he accepted to lead the work of the WHO Collaborating Centre for the Evaluation of Methods of Diagnosis and Treatment of Stomach Cancer. On this occasion we had the opportunity to meet with Dr Tsukamoto in person. From this time on, our mutual interests in the field of cancer allowed us to meet with him quite frequently. To us he was always a very gentle scientist having much experience in dealing with collaborative work and demonstrating a great devotion to his responsibilities for the WHO programme. Our continued association with him permitted us to appreciate him not only as a scientist but, most especially, as a great personality and for his human qualities. His unfailing kindness and consideration for the viewpoints of his colleagues were remarkable. Some of us were fortunate in meeting with him in his own Institute and were much impressed with his sincere and whole-hearted hospitality.

Dr Tsukamoto gave generously and unstintingly of his time and the working capacity of his Institute for the demands of the WHO cancer work. Under his competent leadership of the Collaborating Centre a number of goals were attained, and these represent pioneer steps in the WHO collaborative work in cancer. It would be difficult for us to enumerate the many contributions he made to this work. However, it must be mentioned that his enthusiasm for the collaborative work was expressed most vividly when he undertook on his own initiative a three-week course in his Institute on Early Diagnosis of Stomach Cancer for his fellow members of the Collaborating Centre, drawn from ten countries. We are still receiving their expressions of gratitude for this immensely useful learning experience.

In the person of Dr Kempo Tsukamoto the WHO Cancer Unit has lost a faithful and devoted collaborator and friend.

Dr A. Winkler      Mrs R. Lunt

Medical Officer      Scientist

Cancer Unit

# 塚本先生を想う

WHO癌研究班医務官 A・ワインクラー

同科学担当官 R・ルント

(ジュネーブ)

塚本先生の不慮の訃報は、われわれにとって大変な悲しみであった。われわれが「公式の場」で初めて先生に接触の機会を得たのは一九六一年のことである。先生がWHOの「胃がん診断・治療方法の評価のための協力研究センター」の事業を指導されることをお引き受け願った時であった。その際、われわれは先生に親しくお会いする機会を得た。われわれはがんの領域に関心があり、そのことによってしばしばお会いすることが出来たのであった。われわれにとって、先生は非常に温厚な科学者であられ、同研究作業の遂行にあたってはご経験が豊かで、この研究計画に対する責任の履行に大いに献身されたのであった。先生との連携を続けてゆくかたわら、われわれは先生がただ単なる科学者ではなくして、偉大な人格者であることを感得するようになつた。同僚の人たちの見解に対して先生が示される尽きることのない懇切さと配慮は驚くべきほどであった。われわれのうちには、幸にも先生の研究所でお会い出来、先生の誠心誠意のご歎待に痛く感銘を受けた者もいる。

WHOのがん研究の要請に対し、先生はご自身の時間はいうまでもなく、先生の研究所の研究能力を惜氣なく与えられたのであった。先生の有為なご指導のもとで、WHOの協力がん研究センターは、数多くの目標を達成し、がんの分野におけるWHOの協力活動でこれらは開拓的業績となつた。ここで特に言及しなくてはならないことは、この協力活動に対する先生の情熱が最も鮮烈に表わされたのは、先生の研究所において十カ国より参集した同センターの同僚たちのため、三週間の研修課程を自発的に設けられた時であった。われわれは、この非常に貴重な学問的経験に対する謝意を参加者から今なお受けているのである。

塚本先生の死去は、WHOのがん研究班にとって、忠実にして献身的な協力者、そして友人の喪失となつた。

# 座談会

## 塚本憲甫先生を偲んで



出席者（敬称略）

山中 和

厚生省大臣官房  
科学技術担当審議官

田崎瑛生

東京女子医科大学教授

塚本哲也

毎日新聞社外信部副部長

都立駒込病院副院長

伊藤一

高谷治

国立がんセンター病院  
生理検査室医長

司会 今日は四人の先生方ですから、鼎談というより座談会で塚本先生を偲んでということでお話を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

最初にまず伊藤先生、どういうぐあいに……。

塚本 先生のお若い頃からずっと順を追って話題を提供していただきましょうか、それともランダムでいきましょうか――。

内科から放射線へ

塚本 一番最初から御存じなのは田崎先生です。私は、父が大塚の癌研にいたときのことなんか全然知りません。この間初めて大塚の癌研の当時の父の部屋を見に行って、ここにいたのかなと思って……。ですから、田崎先生に最初にお願いいたしましょう。

司会 私ども、とにかく内科の先輩かと思つておりますたら、いつの間にか塚

本先生は放射線の大家になつておられたので、その辺には多少意味があらうと思ひますので、そこら辺から……。

**田崎** さつき来がけに先生の「私の履歴書」（日経紙連載）を読み直してみましたら、こういうことが書いてあるのです。

昭和六年三月に東大を卒業されて、すぐ稻田内科に四月に入つておられるのです。そして、癌研に稻田先生が院長になって行かれるとき、「君も来ないか」といわれて昭和九年九月、初めて放射線科に入られたということです。それまではずうつと内科の勉強をしておられたいたわけでしょう。ところが、がんを一生懸命やるには、ヨーロッパあたりでラジウムや何かでがんが治る、よくなっている、だから非常にこれからおもしろいことがあるから放射線のほうをやってみないかということを稻田先生にいわれたと書いてあるのです。それですぐ入られたらしいですね。

司会 稲田先生が方向づけをされたの



向って左から、山中先生、塚本先生、伊藤先生、向って右から、田崎先生、高谷先生

ですね。  
**田崎** そららしいです。そのときはちょうど三十歳くらいのときですね。そのとき、癌研の放射線科の部長は山川保城先生です。そのころ一番すぐれた、「ラジウム療法の実際」という本を書いておられて、その人が部長さんで、そこへ塚本先生と、慶応から山下先生と、二人が入られた。それで二人が手伝つておられた。そして、昭和十六年に山川先生が亡くなられまして、三輪光雄先生という物理の先生と、塚本先生、山下先生が同時に放射線科の主任になられたわけです。そのとき、たぶん物理のほうはその三輪先生がずっとやつておられて、その後には今癌研におられる尾内先生です。そして臨床のほうは山下先生と塚本先生と、臓器を分けておられました、たしかあの時。例えば頭かい部は塚本先生でその中の舌がんだけを山下先生、白血病とか悪性リンパ腫というようなのは塚本先生、というように身体のがんを放射線治療学的には相互に分担して責任をとつておら

れたのです。私は、実は自分のことが出てきてどうしてもしようがないのですけれども、十八年の九月に癌研の内科（田崎勇三部長・副院長）に入りました。二

年ばかり内科を少し覚えたどこかに行つつもりで入ったのです。一年たった時に、稻田先生が塚本先生に言われたよ

なことを、今度は田崎勇三先生が私に、内科もいけれども、一日置きくらい塚

本君の放射線科を手伝つたらどうだなん

て言うのです。私は放射線というのは何

にも知らない、大学の時もほとんど講義

も聞いたことなかつた、どんなものかも

分らないと言つて、だいぶ渋つていたの

です。でも一日置きだからいいだろうと

いうので手伝つたのが、先生に教わり始

めた初めです。だからあまり気が乗つてはいなかつたのです、当時は。

**塚本** そうですか、それは初めて聞き

ました。



田崎先生

### 復興後の癌研で活躍

**田崎** それで焼けるちょっと前に――

焼けたのが二十年の五月頃でしたか――

塚本先生は一人でやっておられるのに、

私は基礎の勉強がしたくて外に出たの

です、二年ぐらい。その間にすぐ焼けち

ゃって、癌研は一時解散しました。塚本

先生は特に、頭かい部のがんの治療に熱

中しておられたものだから、癌研の塩田

院長にラジウム借出しの許可を得て、東

大の耳鼻科を持って行かれ、引き続きや

伊藤

塚本先生が兵隊に行かれなかつたのはデーベか何かですか。

塚本

父に聞きましたら、兵隊に行か

ないのは、当時国家に役に立つ特別の人

は兵役を免除するというのがあって、そ

れに該当したのですって。それで戦争に

は全然行かずに済んだのだそうです。

**田崎** 戦災で解散した癌研は、西銀座

の南胃腸病院の跡に昭和二十一年八月に

塩田先生を院長に仮復興され、塚本先生

は、放射線科部長として再び参加された

わけです。私はいろいろな所で基礎の研

究をやっていましたが、二十三年の八月

に塚本先生のところにお伺いしました折

に、人手が足りないから手伝に来いよと

言られて、しばらくと思って行ったの

つておられたのです。その時東大の耳鼻科も、医者がみんな戦争にとられていたのですから、耳鼻科の一般外来の診療も随分手伝つておられたと聞いておりま

す。後々それが頭かい部がんの診療研究に随分お役に立つておられるのではないかと思ひます。

に、それから御一緒に、いつの間にか、十年間経ってしまいました。

その間、西銀座から現在の大塚に復興移転しまして、そして放射線科だけがまず向こうに移りましたが、それからが大変な忙しい時期になつたんじゃないですか。放射線科だけで百ベット位いあります。しかし、それからその当時竹田先生、梅垣先生、私などを含め全部で十人位いの医員がいて右往左往し、大変な患者の数をこなして忙しい思いをしました。それで僕等が感心しているのは、塚本先生はいつでも私どもの三倍位いの患者さんを診られるのです。いくら御一緒にやって教わっていたって、こつちはちつとも追いつかないわけですよ。

### セクトにとらわれず 患者のために

司会 内科から放射線にいって、また耳鼻科にいかれてというような、こうい

う御経過。例えば田崎先生も内科から放射線科、その時に別に心理的に何か動機づけみたいなもの……、やっぱり奨められたからといったという素直なもの……。

田崎

塚本先生が東大の耳鼻科に在籍されたのは戦災による癌研の解散という偶然の機会からですが、当時の放射線設備で治せるのは子宮がんとか頭頑い部のがんが主なものだったのです。それで、

その当時先生が主として頭頑い部のがんに熱中しておられたので、一般的な耳鼻科の診療も積極的に経験を積もうというお考えもあったのかも知れません。

司会

実際のがんを治そうという、そ

ういうことからむしろ内科であるうと、放射線であろうと、耳鼻科であろうと、何でもマスターしようと、こういう考え方だつたのですね。

田崎

そうです。塚本先生は物おじさ

れなかったですね、いろいろな事に。それは内科の素養もあつたですからね。

司会

それは、そんなことは今はでき

て、今度はこれを治そなんということは、もうこう分化した世の中ではできませんからね。

塚本

「私の履歴書」を書くときに、

その当時のことを聞いたんですが、癌研でのどや鼻のがんをやっているうちに、どうしてももう一回耳鼻科の基礎から勉強して、しっかりした勉強をしてからまた放射線をやりたいということで、進んでいったようです。

もう一つの理由は、癌研が焼けちゃつたので、ラジウムを預かってくれるところが東大しかなくて、東大に一時ラジウムを預けたらしいですね。それで研究できたのだそうです。

田崎

そうなんです。一つには、塚本先生の考え方というのは、放射線にしろ

外科にしろ、何にしろ、一つの道具だという考え方なんですね。

司会

セクトにこだわらないのです

ね。

田崎

だから、治すためにはその患者

に一番いい方法だつたら何を使つてもいい

いじやないかといふことが、どうも心底にはいつもあるのです。ですから上顎がんの手術を始めたときも、東大の増田先生という耳鼻科の教授に何回か来てもらつて、自分が手伝つて、もう何回くらには自分がおやりになつたと、ようです。そうゆうやり方で頭けい部がんのいろいろな手術も積極的に手がけられるようになつたようです。

### 糸目も切れてた解剖書

伊藤 そうすると、塚本先生ご自身でウエーバーもやられたのですか。

田崎 主としてデンケルですが症例によつてはやられました。喉頭全剥から甲状腺の手術、けい部のリンパ節廓清など

頭けい部がんの放射線と併用の手術的作という意味でほとんど全てを手がけておられました。私どもそれですいぶん今役に立っていますね。解剖が大変わかり易いですね。

司会 そういうところは特筆大書するべき経歴ですね。僕らが思うには。

田崎 それからついでに申しますと、

放射線治療に附隨する気管切開、胃瘻、人工肛門造影や膀胱開創ラドンシード刺入とか、単純乳房切断と腋窩廓清とか、いろいろやっておられました。

司会 ほんとうに内科の先生とは思われないです。

伊藤 それで僕も理解できました。がんセンターにこられ、我々外科医と非常に仲良くなつたのですけれども非常に外科の手術のこと理解が早いから、これは一体どうなつてゐるのかなと思つていました。普通ちょっととなかなか内科の先生でもそう簡単に……また手術がお好きで、手術材料の切出しなんかも毎週出ておられましたね。

### 世界的研究、

### ハーマーの変法

田崎 スペルテホルツの解剖書をしおちゅう見ておられ、文字通り本の糸が切れている程で、手術の途中でも、その次の次のページを開けといわると、必要なところがぱつと出てくるのですね。

そういうのを見ながら、ああ、この筋肉が何というのだったなとか、この神経が何だといって解剖を実によく覚えていら

れましたよ。

塚本 それで思い出したのですけれども、父が亡くなりましてから、総長室に

あつた本の中で、秘書の清水さんが、「これが先生の一一番よく読んでおられた本です。これはやっぱり記念にお持ちになつたほうがいいんじゃないですか」と言われて見てみたら、解剖の大引き重い本でした。だからしょっちゅう総長室に置いて見ていたのじゃないでしょうか。

山中 確かに僕ら、やっぱり医者と会うと何科かなという観念がありますからね、塚本先生と初めて接した昭和三十七年でしたが、あの先生何科なんだろ

言つたら、耳鼻科らしいと聞いたので、はじめ耳鼻科の塚本先生かというような観念でお会いしてしました。ところがどうも話すと耳鼻科じゃないんだな。耳鼻科の人にもよく会うから、耳鼻科の人の話題というのは大体あるのだけれども、全然違った印象だったですね。

田崎 昭和二十三年に私は銀座に再開した放射線科にいたときには子宮がんも全部やつっていましたね。そこで私は、初めて子宮がんの放射線治療の手ほどきを受けたのです。先生はたれから教わられてああいう定型的な子宮がんの治療法をやり出されたのか。この間、必要があつて大正年間の末頃からの論文も調べたのですけれども、わからないのですね。日本人患者むきのいい治療法を塚本先生は確立されましたね。

司会 乳がんについては、それは私も存じ上げていたけれども、ああいう融通無礙なというところはこれからやはりね。学者の卵を洗脳しなければいけません

伊藤 そうですね。今後がんセンタ一の医師はみなゼネラル・オンコロヂストということで、がん科の医者になれよとうことなんですか。

田崎 私ども是非そういうふうにならなければ。あまり分かれていますが

人の中でもお互にわからないと非常に具合が悪いと思いますけれども……。

伊藤 最初に内科にいかれてゼネラルをやられたのでよかったです。初めから小さな科なんかにいかれる、どうしても固まってしまいますからね。

司会 だから、やはり内科というは全ての根源ではあっても、最終的には常に内科でなければならぬかというとそうではない。内科はいろいろプロジェクトを追及するということではないといけないのですね。

もう一つ、先生が世界的なご研究をなさつたと聞いているのですけれども、それはどういうことですか。

田崎 私が第一に考えたいのは、やっぱり喉頭がんのハーマー・塚本の変法と

いうのでしょうか。当時の日本のX線装置ではほとんど治せなかつたのです。それで、けい部正中線で開創して、甲状腺の上に線強度の弱い一ミリとか、〇・五ミリのラジウムを量で九ミリ程度にしていかだ状に組んで挿入し、一週間か十日ぐらいで抜去する方法です。ハーマーの原法というのは、甲状腺に穴をあけていたのですね。その傷のために軟骨がネクローゼになつたり、喉頭浮腫が強かつたりだったのでそれをやめて、じかに軟骨の上に乗せる方法ですね。そのためには、細かいいろいろな工夫があつたわけですが、喉頭がんのT<sub>1</sub>とかT<sub>2</sub>といふところでは、今でもそれが一番治癒の確率の高い方法です。ところが、今高エネルギー放射線が普及し、医者の被曝とう面からもそれに変わつていったということになりました。

もう一つは上顎がんでしうね。十分なデンケルの手術のあと腔内照射をするという、手術と放射線の併用療法で、あの頃おそらく三十%永久治癒していまし

たね。だから現在あれから一、三十年経つて、10%か20%治癒率が上がったかもしれません、当時としては一大進歩であつたと思います。他にもいろいろあります、先生の最も大きな功績は、がんの放射線治療をヨーロッパ風のブラック

ティカルな治療法として定着させられた努力だと考えます。

伊藤　今のお話を聞きまして、私は関西においてましたけれども、どうも私は関西の塚本先生の弟子らしいですね。というのは当時関西では、ラジウムはほとんど使われてなくて、私たちの病院にだけありました。しかも内科がほとんどやられていきました。それでハーマーもやりましたし、今聞きましたウェーバーで上顎を切除したあとでラジウムチューブを並べるやつもやりましたし、それから子宮がんのモリディングでラジウムを入れるのもずいぶん素手でやりましたよ。どうも塚本先生のやられていたことを大阪で真似をしていました。

田崎　どこでそういう交流があつたのでしょう。

伊藤　山口寿先生という東大から来られた院長、その方がラジウムが好きで、おそらく塚本先生と何か交流があつたのでしょうか。

司会　なるほどそういう世界的ご業績は、要するにセクトにこだわらないで耳鼻科もすべてマスターされたということから出て来た仕事ですね。内科だけは最初からここに穴をあけて並べようなんという気はしませんからね。

それじやひとつ放医研のほうの話を：

山中　私は、初めて先生にお会いしたのは昭和三十七年に科学技術庁の原子力局に勤務した時です。その時に放射線審議会というのがあります、その仕事をちょうどとしておりました。その時先生がちょうど委員で、先生はアイソトープ部会の部会長をなされておりました。当時放射線障害というのが非常に世の中を騒がしていたので、放射線障害側に立つたいろいろ学識ある先生方が非常に張り切つておつた時代で、そろそろたる人たちがいたわけです。もう亡くなられた嵯峨根遼吉先生とか、木村健二郎、山崎文男、田島英三の各先生等がメンバーにおられ、むしろ医者のほうがいじめられるというような状態でした。そういうそぞそ

田崎　私が三十三年二月まで癌研におりまして、塚本先生が、広尾病院におまえ放射線科ができて、コバルトもちろん入れ、院長が来てくれと言っているけれども、どうだいと言って、都立広尾

### いい星のもとに

#### 生まれた縦大将

うたる人の中で、温厚な塚本先生がうまく会をリードしてやつていけないのじやないかと、正直のところそう思つたのです。はつたりがあるわけでもなし押えるでもないし、何か初めは非常に心配していましたら、そういうことじゃなくてとにかく先生がまとめていると何となくあらんとなくまとまってしまう。どうしてそなうなるのかがよくわからなかつた。その後三十九年に先生の所長をされている放研の企画課長で赴任し、まる一年半いつもそば近くお仕えすることになつたわけです。そこで初めて、何といいますか、先生の人柄に直接触れることが出来たわけです。それでいろいろなことがわかりました。こういう言葉でいいかどうか、先生はいわゆる「よい星のもとに生まれた総大将」であるという感じなんで、要するに塚本先生の一つ一つをいろいろあげつらう人がいるけれども、塚本先生の歩いていくところは自然に草木がなびいちやつて、何となくまとまつてしまつた。

放研というのはそれ自体は研究所ですが、そこの塚本所長から受けた印象

まうという。どこがどうということじゃないのだけれども、そういう印象を受けた、塚本先生の小さな行動一つを、あそこはこうやってくれればよかつたのにということは、一切それ以後やめることにした。

今私もそういう風になつて來たかどうか



山 中 先 生

は、先生はむしろ本当の意味の臨床家というか、本当に人が好きだという感じなんです。それで、臨床家は一番人に接するし、そういうことで本当の臨床といふものを考えておられたような気がしました。田嶋先生が当時病院部におりましたから御存知ですが、よく所長室にいなあと思うと病院に行つてゐる。先生、あまり病院ばかり行つてちゃ困りますといふようなことも、しばしばありますた。やはり非常に人を愛する人柄であったということで、所員みんなが慕つていました。

それからがんセンターへ移られたわけですから、そこへ行つたら先生また大変じゃないかと思つましたが、結局先生は大きな組織へ行けば行くほど坐りたような気がしてます。やっぱり世の中というのは、あまりこざかしい知識や策略を振りまいたって、結局どうなることでもないので……。

八年に厚生省で国立病院課長になり、

再び先生と直接お会いする機会が出来ました。私は、正直言って自分の人生に言葉で表わせない教訓を得たというか、前後を通じて先生の薰陶を受けたという感じがしております。

### 眼光紙背に徹する

#### 天性の能力

塚本 さっき山中さんが言われた、「いい星のもとに生まれた総大将」ということについて、私の立場で言うのも変なんですが。

高校からあとのことは皆さんかなりよく御存知のはずですけれども、中学校時代は一体どういう人だったのだろうかと思つて、中学時代の親友の鵜飼信成先生に、中学時代は父はどういう人だったのでしょうかと聞いてみたら、鵜飼先生は「何となく塚本君は人気があり、つきあいは広かった。スポーツマンでもないのに運動部のマネージャーをやつたりす

る。中学時代はあまり勉強しない人だつた」というのですね。試験の時になると、銀座教会の鵜飼先生の家に、青山から前後を通じて先生の薰陶を受けたという感じがしております。

聞く。要するに一夜づけだったように思います。静岡高校を受ける時には、いわゆる受験勉強というのはしなかつたといふのです。その話を聞きまして、何か父の原型といいますか、今、山中さんの言われた、非常に人間好きだということ、

塚本 それから田崎先生が言われた、自分の境界、自分のカタゴリーにこだわらないところについて、私の立場で言うのも変なんですが。

田崎 放医研に行っている頃であります。私は市川に家が在りましたから、ときどき先生のおうちにお伺すると、先生のお話の中にちょいちょい貴方の噂さが出るようになって来たわけです。

田崎 放医研に行っている頃であります。私は父と初めて知り合ったのは、放医研の時——田崎先生は確か放医研から移るか移らない時に……。

塚本 そうですか。

最初、父は医者のところに娘を嫁がせようという気持ちだつたらしいのです。私は娘のほうと先に知り合い、お父さんがどういう人が全然知らないでいました。そのうちに名前を聞いて何か聞いたことのある名前だと思い、新聞社の資料室に行って調べたのです。それで放医研の所長だということが分りました。たまたま三井不動産社長の江戸英雄氏、毎日新聞の松岡英夫編集局次長に、その人のお父さんは塚本憲甫という人だと言うと「その名前はどこかでよく聞く。そうだ、長沼弘毅氏のところに行くと、そ

人の名前は「ショットチャウ」出る」というの  
です。それで初めてお二人から長沼さん  
を通じて父のところに話がいきまして、  
それであ少しは軌道に乗ってきたわけ  
です。その時の父の態度というのは、  
さつき山中さんが言われたように、最初  
どうなんだかわからないのです。それで  
私も気をもみました。そのうちに、話の  
節々にひょいと、いろいろなことを言う  
のです。「ちょっとうちへ来ないか」と  
か。「来ないか」というのは、これはい  
い兆候かなと思って行ってみるとだれか  
来た時に「これはお嬢さん候補だよ……  
お嬢さん候補だ。……」。(笑声)「候補じ  
やいつになつても駄目かな」。「万年候補  
かな」と思つたりして……。そのうちに  
候補という名前がいつの間にかなくなり

か見すぐめられるところがありました。  
何も言わないだけに、かえってこわかっ  
たです。

■ 結婚してからずっと見ていると、非常  
にカソの鋭い、直感的な把握力の大きい  
人だなと思いました。それは医学に限ら  
ず、いろいろな政治的、社会的な問題に  
してみてもそうでした。ヨーロッパによ  
く来て、いろいろな人と一緒に話すチャ  
ンスがあると、ぽんとつぼを得た質問  
をするので、ずいぶんびっくりしまし  
た。やはり天性の能力かなという気がし  
ます。

と、うんとつらいものなんですね。今にな  
つてみてよく分ったのですけれどもね。  
先生はほとんど一人でやっておられたで  
すからね。私の言うことを聞いて、僕の  
ほうも大変だが、何とか自分のところは  
やるから君はといわれます。——ちょうど  
伝研にいたときですから、そこのある  
部に入ったのですけれども、——伝研に  
は自分の兄貴の赴夫さんの同級ですか、  
長谷川秀治先生、そして中村敬三先生を  
自分も昔からよく知っているから、その  
先生におまえのことをよく頼んでやるか  
らと言われたのですね。その頃はありが  
たいもへったくれもなかつたので、自分  
がやりたいことを一生懸命だったもので  
すから、行つたですけれども。伝研に二、  
三年いてから、もう一回臨床を少しやり  
たいからといってやはり相談に行くと、  
たまたま親切に言ってくださつたものだ  
から、塚本先生のところに行つて「どう  
しましようか」と言つたら、「そんなら  
昔、君は少しやつていたから、すぐやれ  
るから、一緒にやらなさいか」というので、

### 我慢強いはにかみ屋

田崎

もう一つ私が今になつて非常に  
ありがたかったということをお話ししま  
すと、大塚が焼ける前に、二年間大塚で  
働いたから、私は基礎のことをやりたい  
と言つて出たのです。その時医局員がも  
のの岳父になるという気持ちとは別に、何  
のすごく少ない時に、一人でも出られる

私は女房の里に転がり込んでいたもので

すから、そこにすぐ翌日来て、月給はい

くらだ、こうだと言つて何の抵抗もなく

すぐいつちやつたですね。それがどうと

う今まで放射線をやるきつかけになつた

んじやないかと思います。そういう風に

自分のことをずいぶん我慢された面もあ

りますね。

先生のご性格の話が出ておりますが、何か少しばにかみ屋のようなところがあ

りましたね。あまり面と向かって弟子に教えられないのですね。教える時は酒を

飲んだような、冗談めかしたような教え

は全然なかつたですね。だから、そういう窮屈な思いをしながら一緒に働いてい

たという氣は全然しませんでした。例え

ば、あの頃は、食道鏡も気管支鏡も硬性

のもので、先生の助手として患者の頭持

ちを何年もやつていましたが、こうやれ

ばいい、ああやればいいと言われなかつ

たですけれども、自分がやらなければな

らない羽目になつた時、いつの間にか出

来るようになつていきました。ああ、やは

りこういう教え方があるのだなと思つて

感心したことありますね。

## 則 天 去 私

塚本

うちでもああしろ、こうしろといふことは全然言わなかつたですね。たゞ何となく間違つて「そうかい？」といふよ

うな時には、「そうかい？」といふよ

うな、クエスチョンマークでした。それ

で、「これは大変だ」といつもピンとく

るのです。やはり非常に我慢強い人だ

と、私も感じました。それから、「俺

が、俺が」という自己顕示欲の強い人

じゃなかつたですね。自己犠牲というか

……。

司会

がんセンターのほうはどうです

か。

伊藤

私は、塚本先生に初めてお目に

かかり、親しくしていただいたのはがん

センターに来られてからなんですか

です。

司会 それはどういう意味ですか。子

供さんがヨーロッパへ行っておられて寂

しいだらうということですか。

塚本

はい。母が病弱だったから、夜

ゴミバケツを一人で捨てに行つたり、朝

一人で目玉焼きを焼いて食べて いたり

……。亡くなつてから、父の総長室の引

き出しを開けてみて、四月に再入院した

時のメモが出てきたのです。そのメモに

「則天去私」という言葉がありました。

何かいかにも父の書きそうな言葉だなと

いう感じで、胸がいっぱいになり、申訳

ないと思いました。

## 喜ばれた院長回診

もので、先生の助手として患者の頭持

ちを何年もやつしていましたが、こうやれ

ばいい、ああやればいいと言われなかつ

たですけれども、自分がやらなければな

らない羽目になつた時、いつの間にか出

も、最初に申しましたように、田崎先生のお話を聞きますと、ずいぶん前から——私、昭和三十年から微研にいたのですけれども、塚本流のやり方を関西でやつていたということ。それから、忘れてしませんが、今先程話が出ていました、私が非常に親しくしていました内科の楠



伊藤先生

れたことについて、私、久留先生と一緒に大阪から來ていたのですから、久留先生はああいうこわい先生ですけれどもときどきちよろちよろと自分のプライベートな意見を私にお話しになって、塚本先生はいざれ遅かれ早かれがんセント一へ来られるということは、僕は大体知つていていたわけです。久留先生が非常に塚本先生を買っておられまして、どうしても塚本君に来て欲しいということを言われていましたからね。

が、塚本先生のご経験には長沼さんは無視しちゃいけないご存在であるように聞いています。長沼さんがあそこに入院しておられる頃、久留先生が回診に来て、どうして早く塚本を呼ばないのだ。おまえが悪いのだぞと言われて、だいぶ長沼さんが責められていきました。

伊藤 塚本先生について最初に面白い話がありまして、それまでずっとセントラルでは久留先生が外科なものですから、外科の我々がともかく雑用からしかられ

役から全部やっていたので、久留先生が亡くなつて塚本先生に変わつたから、今まで大変なのは放射線科、おまえのところだぞと梅垣さんに言つていたのですけれども、何か結果的にそのうちにまた我々外科医が先生の小間使いみたいになりました。先生は確かに患者を診るのが好きな方でしたね。がんセンターは院長回診というのは、各科全部回るわけですが、それで非常に塚本先生そのことを喜ばれて、今まで頭けい部等のがんばかり診てこられたのが胃がんの術前・術後とか、化学療法の患者がどうなるのかということを非常に興味をもつて見られて喜んで回診されました。それから、またよく患者を診てくれと頼まれて乳腺の腫瘍等をよく我々が診させられました。普通内科の方とか専門外ですとぱつと患者さんを紹介されて、こうですよと報告したらそれで終りなんですねけれども、塚本先生はどうも先に自分で診ておられるのですね。私はこういう所見ですと言つ

と、ちょっとそこのところはこうじゃないかと言われて、しまったと思ったことがありますたね。

田崎 乳がんの患者はずいぶん診ておられますからね。そして、その予後を実

によく知つておられるわけです。いろいろ悲惨な症例も知つておられるし、簡単な症例も知つておられるし、だから非常に興味を持つておられたのじやないでしようか。

### プール開きで喝采

伊藤 そのうちに、塚本先生のプライベートのゴルフの時の運転手になりまし

て、塚本先生はざるいので、私は自分の車で行つたほうがいいから先生送りますと言つたら、いや、おれは自分で運転して、君を乗せてやるからと言われるから、そうかと思つて乗つていつたら帰りしなは必ずおまえ運転しろ……(笑声)。

塚本先生はゴルフ場でビールかウイスキ

ーを飲まれるわけだけれども、こつちは全然飲めないのでよ。しかも塚本先生の車はオートクラッチでしょう。初め慣れるまでだいぶ苦労しました。

田崎 それは、僕の時は逆でしたね。

僕は送り迎えしてもらつていましたよ。

友だちみんなが言うには、おまえはしおがないじやないか、恩師に送り迎えさせて何ごとだなんて言われて。このことを言うと、おれは好きだからいいんだよなんて言つておられましたね。

塚本 車は好きだったようですね。

伊藤 好きでしたね。しかし、やはりだいぶお年になられたからでしょうかね、帰りしなは必ず運転させられましたね。

山中 放医研の時も車を一週間に一ペングらい自分で乗つてくるのです。市川にいましたから運転手が必ず迎えに行きます。今日は、自分の車で行くのだと言つて先生が先に運転して、運転手は後から氣をつけて自動車でついてゆくのだそ

のだけれども、ときどき後から運転していかなければならぬから大変ですよ」と言つていました(笑声)。ときどきトレーニングをなさつていたようですね。

司会 ある程度思い出す意味もあつたのでしょうか。

塚本 身体を動かすことが非常に好きだつたようです。よく「じつと机に向かっているよりは、身体を動かすほうが好きだ。肉体労働者なんだ」と言つてしまひた。

山中 そう言えば、放医研では研究者から事務をとる人まで、いろいろな職種があります。研究者もいれば医者もおるし、役人もおればいろいろな雑用をする人もおるというところですから、皆が共通の場を得るのはやはり運動しかないので、四十年頃でしたか、無理をしてプールをつくりてもらったわけです。そうしたら塚本先生が、プール開きをせにやいかぬ、わしが泳ぐと言うわけです。その頃まだゴルフもやっていませんし、所長からそういう荒々しい運動のイメージ

はわからないわけです。そしてブール開きに本当に泳いだわけです。二十五メートル近くあるのですが。そうしたら、名前はふせますが、ある部長が自分も泳ぎは上手のだというわけで、皆の見守る中で二人で初泳ぎをしたわけですが、塚本先生は上手のですよ。ずっと泳いで……。

**塚本** 水泳部だったのですよ。  
**山中** それでその部長が途中で横へいつて上がっちゃって……。大変な人気だったですね。

**塚本** オリンピックでメダルとった牧野選手と一緒に泳いだのでしょうか、静高時代に。

**伊藤** がんセンターで、やはり先程山中審議官言われたようなことで、塚本先生は非常に温厚な方ですから、そういういろいろなできつがない。しかし、一つ非常に私今でも記憶に残って、今後我々もあいうところはきつかりやらなければいかぬと思つことがあります。ある重要な問題が発生し、いろいろ的人が種種雑多な意見をはき、なかなか決らない

はわかないわけです。そしてブール開きに本当に泳いだわけです。二十五メートル近くあるのですが。そうしたら、名前

はふせますが、ある部長が自分も泳ぎは上手のだというわけで、皆の見守る中で二人で初泳ぎをしたわけですが、塚本先生は上手なのですよ。ずっと泳いで……。

ことがありました。そこで塚本先生のところへ皆でそのご意見を申し上げに行つたのです。その時先生は非常に簡単明瞭に、この問題は私が決めることである。

悪いかいかは将来において批判してくれ、もしそれが今現在どうしても不満な人は、その人が辞めるよりか手がないな

と、こういう言い方をされたのです。塚本先生のそういうところでぱっと決められたほらが少なかった時期もあったようです。塚本先生は、放射線審議会関係で本先生のそういうところでぱっと決められるということは、非常に大切なことだと思いましたね。

**田崎** 私はがんセンターに行かれる前に放医研に行かれたのは非常によかったと思いますね。というのは、がんセンターはがんセンターとしていいとしても、放医研に行かれて医者以外の領域とか、官界の世界の理解が急速に広がられたの

ではないでしょうか。

**司会** もう一つ、塚本先生の印象とし

て、国際交流の話がありますね。それは務められておって、そのほかにも学会があるで、本当に一年のうち日本におられたほうが少なかった時期もあったようです。塚本先生は、放射線審議会関係でもずいぶん遺伝関係とか、ほかの工学関係などの中に入つてやっておられましたし、放医研もあの頃国際交流が華やかになってきた時で、いつも国の代表で行かれる機会が多かつた。「私の履歴書」の中にも国連の場の裏の取引がどうだなんということが書いてありますけれど、やはりそういうご経験はある時たくさん重ねられたのじゃないかと思います。それでも、大変だろうと思つても言葉のほうは絶対だいじょうぶだし、外国で偶然会つたこともありますけれども、少しも苦になさらずエンジョイしてやられていたように見受けられました。

**司会** がんセンターへ来られてからも

伊藤 英語は何か、ずいぶんお年になつてから勉強されたようですが、お手だったですね。

田崎 いや、年をとつてからではないですよ、やはり中学時代から。

塚本 そうらしいですね。青山学院の英語の教育が耳から入る教育だと言つていました。だから英語の発音も、外国で聞いてもそのままほとんど判つたようです。

田崎 ご家族が音楽の素養があられ、語学的には先天的に耳がよかつたということは無縁ではないようです。

塚本 ドイツの私のうちへ来た時も、東京から来て一晩泊つて、起きて、翌朝ちょっとと電話帳を見せろというのです。何かさがして、アーヘン大学の放射線の専門の先生にドイツ語で電話をかけるのです。僕はそばで聞いていました。

父はどんなドイツ語でかけるのだろうと思つて、実は内心はらはらしていたのです。そしたら、本物のドイツ語で、長いことしゃべつているのですよ。今娘の

うちにいて、これこれこういうわけで、あの問題はこうだなどと言つてはいる。それでびっくりしまして、「忘れないのですか」と言つたら、「まあな」とか何とか言つてました。

司会 先天的に語学の天才であられたのですね。

伊藤 この間僕はWHOに行ってウィンクラー博士に会つて、そのあとまたバンコクに行つてDrソムチャイに会つたのですけれども、Drソムチャイなんかにお会いになつたのは、バンコクに行かれた四日間ぐらいだと思うのです。しかし非常に向こうは塚本先生のことを覚えていて、非常に残念がつてしまつたね、両方もとも。だから、全世界的に非常に人に好かれた方でしたね。

塚本 今、思い出したのですが、父が亡くなりましてから数日後に、ちょっとと用事がありまして、警察病院の大森清一先生のところにお礼を行つた時に、先生は思いがけないことを言つたのです。「塚本ほど強い人間は実はいないのだ。あれは何でも柳に風で、何を考えているかわからない。やさ男でニコニコしているから、弱い人間かと思うとそうじゃない。最後までいくと全然譲らないのだ。あれは外柔内剛の典型的タイプなんだよ。酒を飲んでも、からまれても、ぶんなぐられても、何をされても平気な男なんだ」と言つた時に、大森先生はよく見ておられる、これは本当のことだと私は思つたのです。

司会 そうですね。それから、お陰様でがんの研究も、塚本先生がおられたの

でだいぶ国際的になりましたですね。

伊藤 今度の新しい建物建てるのでも非常に先生にご苦労いただきまして、大蔵省なんかも我々一緒に行つていただきたこともありますしね。

### 外柔内剛の典型的タイプ

## 早くから知つておられた

### 「自身のがん」

司会 確かに強いご性格でした。あるところにいくとばしりとされるところがあつて、そういうことがあるからこそや

はりこうなられたのでしょう。

伊藤 病気が再発されて入院された時毎日私に「腹をよく診ろ」といわれ「主治医が下手だから肝臓がはれた」とか、知つておられるくせにそういう風に言われるのにはまいりました。

司会 それで叱られた先生もいましたね。本当に苦しい悩みがありましたね。何となく我々もそれは分りますよ。

塚本 父はがんであることは早くから知つていたのでしょうか。

伊藤 ほとんどは知つておられたでしょ  
うね。ただ一割方は、違うではない  
かと希望をもつておられました。ずっと  
以前に、「おまえはレントゲンのため白

血病になるぞ、そうなつたら内科なんか通らずに真直おれのところへ来いよ」な  
るものだから、その後必ず先生は耳血の  
検査をやられていました。まさかそのご  
自分が胃がんになられて亡くなられるとはね。

司会 局所所見は非常に早いがんなん  
です。しかし、早期がんで既に遠隔転移  
が起つていて……  
伊藤 それは剖検報告会がありまして  
渡辺漸先生から、骨髄に見たことがない  
所見があるというようなことを言われて  
いました。何か放射線被曝に関係してい  
るのじゃないかと思ますね。



高 谷 先 生

塚本 私も本当にショックでショック  
で……。ちょうど一年の十二月十八日  
午後四時にがんセンターの先生——伊藤

先生はじめ石川院長、三輪先生、末舛先  
生——から聞いて、目の前が真暗になり  
ました。十七日の夕方、伊藤先生が新聞  
社のほうに電話をくださって、「病状を

細心の注意を払つた  
語学の天才

田嶋 確かに大塚で働いておられる時

は白血球が減つておりましたですね。あの頃は乱暴だったですから、医者も看護婦も全部そうでしたね。

さつき先天的に語学の耳がいいとか何とか言つていましたけれども、やはり努力しておられましたね。というのは、僕も全然知らなかつたのですが、亡くなつてから総長室の引き出しを秘書の人が整理していたら、単語カードがあつたのです。これを聞いて僕はびっくりしました。

塙本 受験生がよくやるでしよう、表に英語が書いてあって、裏に日本語が書いてあるカード。それが全部で十個ぐらい出てきました。大体ほとんどが、国連とか、あるいはWHOとか、ジュネーブの会議とか、リヨンの会議とか、そういうところで使う専門用語のだつたです。駐留米軍の放送がありますでしょう。あれをうちでよく聞いておりました。それで僕は初めて知つたのですが相撲の英語解説があつて、「うつちやりというのは英語で何というか知つてゐるか」とか

——なるほどねと思いました。だから、そういうのを実際の時に使つたのでしおうね。

伊藤

WHOのがん会議でも、非常に細かい文章までうるさくいわれるなと思ひましたね。

塙本 私に日本語で「そうじやじざい



塙 先 生 本 塙

ました。

——なるほどねと思いました。だから、いいたいことは分つていてもどういうふうにそれを表現するのか、最初まず考えたのではないかと思います。わつと手を上げて何か言つてもかまわないのだけれども、それは相手に誤解を与えるものになる。というのは、よく聞いていると、話し方が我々がこういうふうに話そろつて思つていることを違う話し方で話をしている、そのスタイルの話法を覚えないと、相手に誤解を与へはしないかと思つたのではないでしようか。その間にいろいろな話し方を覚えたらしいのです。ですから、何というのですか、婉曲に腹芸に近いような表現方法とか、ああいう表現の時は賛成の意思表示だと、細かいニュアンスをよく知つておられます。初めて国連の代表で行つた時、よく外国語で寝言をいついていました。電話なんかで外人と話をすると、非常に丁寧な言葉です。私はなるほどと感心しました。——ノーとかイエスとか、直接法の表現は、英語でも言わなかつたですね。それに外国語でしゃつちゅう冗談

をいい、笑わせていました。亡くなつてから外国からの多くの手紙で、父のユーモアについて皆ふれていきました。

## 内外で尊敬を

### かちえた得がたい人材

山中 やっぱり、自分のことに関しては、あまり顧みられなかつたのでしょうね。自分が今度はどういうポジションにつくかというような時は、さつき言つたみたいにご自分のこととなると非常に遠慮深いというお人柄だつた……。先生は、よく僕に、役人は知らぬからねと始終放医研にいた時言つておられたけれども、結構よく知つておられましたね。例えば、役人を本当に知らぬ人だつたら、先生、こういうところへ行つて予算のことを先生から説明していくだけませんかとお願ひすると、そんなことは君達の仕事だとか、あるいはいやは顔をすることが多いのですが、塚本先生はいつも笑顔

で少しも形式ばらず、大蔵省のどんな若い人のところでも、はい、はいと言つて……。あの辺のところはいつの間にか勉強されていて、よく知つておられたような感じがしました。そういうところを、ちつとも形式ばらないし、人によつては、そんなこと馬鹿らしくてできるかというところがあるわけですから、

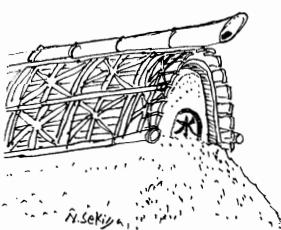
ちつともそういうことにはこだわらない。確かに今がんセンターも大病院の外郭が出来てきたり、放医研にいたときも大きな研究棟などが建ちましたよ、あれはやはり先生のそういう面での力なんです。あの頃外部の財政側も内部の管理側もすべて先生を尊敬しておりました。よく外国ばかり行つていると、何だ管理ができないじゃないかというようなことを言われることがあります。確かに私がお仕えしていた間で、ある一年は半年以上外国にいた時のほうが長かったです。でも、全然本府の方から何にもそんなことはなかつたですね。やっぱり本当の人柄というか、総大将なのかもしけな

いですね、そういうところは。

## 司会 得がたい人材を、せつかくがん

であることを早期に発見していながら失ったということは、とにかく先生のあとがんの研究を推進しなければいけないということですね。我々もがんにやられたいように、お互に用心しなければいけません。

それじゃ、どうもありがとうございました。（おわり）

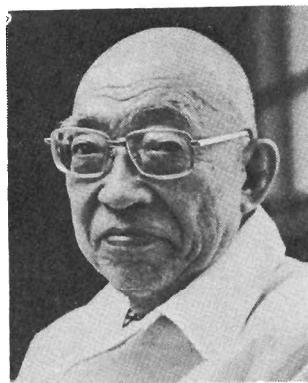


# 奇妙な幻覚

今

東

光



一九七三年（昭和四十八年）の秋から僕はどうやら腹部の痛みと苦痛が次第に募つて来て、うつかりすると切らなければならぬのではあるまいかという懸念を抱きながら、それでも演説や講演も断らずにつとめて來た。原稿も以前ほど速力が出なくなりメ切り日が切迫しては編輯者に迷惑をかけることが多くなった。

十月に青森県の講演ですっかり冷えこみ、東京の宿に帰つたら三十八度以上の発熱だった。てっきり津軽の寒冷が八万四千の毛穴から入りこんだと思って風呂に入つたら、途端に悪感をおぼえがたがた顫える始末。これはまだ温りかたが足らないと一度も風呂に入つたがいよいよ不可い。月末になると到底、堪えられなくなつて遂に国立がんセンター病院

で伊藤部長と小山先生の御厄介になり、大手術をして命拾ひをした次第だ。

ところが病院に運ばれる途中、救急車の中では前後不覚、殆んど人事不省の状態だった。そうだが、本人は奇妙な幻覚の中でうつらうつらしてゐたのだ。

と言ふのは僕の部屋に威勢の好い若い奴が飛び込んできた。誰だと聞くと

「へえ。わっちは尾崎士郎先生のお使いでやんす。先生はこれは三河の海で獲れた魚だから、これを食べさせないと死んで仕舞ふと仰有つて、あつしが持参してめえりやした。どうか召し上つておくんなさい」

と言う。重ねて

「そりや御苦労。そしてお前誰だい」

「へへへ。御存じぢゃござんせんか。わっちは一心太助てえヶチな野郎で」

見ると、まぎれもなくチヨン髪を結っているのだ。どうして一心太助と尾崎士郎と知合ひだろうと考えると、二人は共に三河者だった。しかしどうしても折角の尾崎士郎の贈物の魚を食ふ気がしない。

「有難ふと伝えてくれや」

と言つて一心太助が帰つても遂に食べなかつた。

今から思ふと夢の中でも、あの魚を食つてゐれば僕は今頃は死んでゐたような気がする。と言ふのは昔から冥府の世界の物を食べると二度と婆婆に戻れないと伝えられるからだ。その例は「古事記」でも明らかだ。

それにしても不思議な夢を見たもので、僕はがんセンター病院のベットで仰臥しながらあの魚を食はなかつたことはよかつたと思ふのであつた。

# 第十一回国際癌会議に出席して

国立がんセンター病院病棟部長

## の 題話 研究から

三 輪 潔

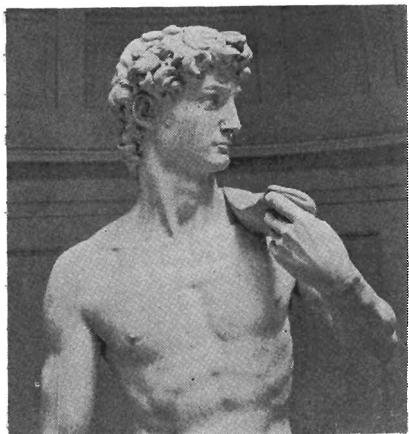


長ぐつの形をしたイタリーの、もう膝  
小僧に近いあたりに、芸術の都フィレン  
ツィエがある。一般にはフローレンスのほ  
うが親しまれた名であるが、イタリー語  
の花<sup>Flora</sup>に由来しているらしく、言わ  
ば花の都である。一世紀にローマ人によ  
つて建てられ、十二世紀から十五世紀に  
かけてもとも発展したフィレンツェ共

和国が、後にイタリア王国に合併したと  
いう歴史的背景をもっている。ルネッサ  
ンス芸術発祥の地だけあって、町全体が  
美術品といつても過言でなく、ミケラン  
ジェロ、ラファエロ、レオナルド・ダビ  
ンチ、ボッティチエリなど耳慣れた芸  
術家の作品をまじえて、建築そのものと  
しても素晴らしい宮殿や教会、画廊や美  
術館などに無数の絵画や彫刻の傑作が並  
べられている。それのみでなく、町の人  
に親しまれている多くの由緒ある広場の  
一隅や橋の袂にも、大理石や青銅の彫刻  
像が目を見張らせる。この古く、落着い  
た文化都市フィレンツェを中心に、第十  
回の国際癌会議が、昭和四十九年十月

二十日から一週間開催された。この学会  
のシンボルマークに、ミケランジェロ作  
のダヴィッドの大理石像の横顔が使われ  
たが、悩みを秘めながら考え深く凝視し  
た眼、しかも課せられた任務の遂行のた  
め断固たる決意をみなぎらせ、若さと力  
と希望に溢れた永遠の調和と評されるこ  
の作品をかかげたことは、まさにがんを  
解決しようという世界中の学者の集まり  
にふさわしいものであった。

二十日の午後、イタリーの大統領を迎  
えて、ミケランジェロを始めイタリーの  
偉大な人々の墓が納められている聖十字  
架教会で、開会式が催された。ブカラッ  
シー会長の開会宣言と大統領などの挨拶



### ミケランジェロ作の“ダヴィッド”彫像

(詳細) この彫像の詳細を見て、芸術家が到達した完全な調和を見ることが出来る。特に極めて美しい容貌、横顔の剛毅なしっかりした刻み方、悩める、しかも決断的な魂を反映した眼の考え深い凝視、課された任務遂行の断乎たる決意に心を打たれる。(アカデミア美術館)



### 執政官宮殿の夜景

この宮殿は、1298年から1314年にかけて、アルノルフォ・ディ・カンピオの企画によって建てられたと言われる。構造の重厚な姿は城塞とも見られるどっしりとした外観で、力強く表現され、優美な窓の列と、二重弓門と中軸を外れた美しい塔のため、特殊な調和と典雅を備えている。

のあと、フェルナンド・ゲルマニーのパイプオルガンが、大きな礼拝堂一杯に響きわたり、決して華やかではなかつたが大変敵かで印象的であった。フィレンツエ市長の歓迎パーティに続いて、ヴェッキオ宮殿の屋上とその聳えたつ塔の窓窓に一斉にかかり火が燃えて、夜空に赤赤と映えたとき、一瞬中世にひき戻されたような錯覚に陥つた。この宮殿は、その昔、フィレンツエの国を治めていた執政

官メディチ家のもので、当時、戦のときやもろもろの国家的行事に、この光景をくりかえし、みな之心の統一を計つたものと思われる。

学会は、翌日からフィレンツエとその周辺都市ルカ、ピサ、シエーナ、ベルギアならびにモンテカチーニに分散して行なわれた。東京や大阪のような大都市と違うので、フィレンツエだけでは会場も宿も間に合わない。参加者は七千人とい

われたが、宿はモンテカチーニとフィレンツェに分散し、数十キロ離れた会場間は沢山の大型バスで連絡された。イタリーの国情は経済的にゆとりがないと聞いていたが、この学会のために大統領自らが後援し、イタリーの厚生省が積極的に支持したこと、関係者の熱意に加えて陽気で人なつっこいイタリー人の国民性のお蔭で、非常に快適な一週間を過ごすことができたし、その意味では学会は成功といってよからう。

開会式に国際対癌連合の代表のデノア

博士が指摘したように、さきのヒューストンの学会のあと四年間に挙げられたがん研究の進歩が世界中の学者から発表され熱心な討論が各会場で繰り広げられた。最初の二日間に次にあげた大きな問題が消化された。がん細胞そのものの生物学的な特徴、がんができるかという点で化学的物質との関係、環境的因素との関係、ビールスによってできる特殊な腫瘍についての諸問題、そしてがんの免疫に関するものなどの基礎的なテーマと、がんの早期診断、外科治療、放射線療法、化学療法のような臨床的なテーマ、そして、がんの啓蒙活動のための専門の人や資金あるいは社会教育のように指名されて日本から発表したのは、国立がんセンター木村副院長（化学療法）、市川放射線診断部長（胃の早期診断）、西岡ビルス部長（免疫）、平山疫学部長（疫学）、東北大学抗酸菌研究所の山根教授（がん細胞）の諸先生方で、わが国の研究の水準の高さを示された。

学会の第3日から第5日までは、約千六百題の公募演題が消化され、日本からも約三百人の基礎研究者や臨床家が参加して、各方面に日頃の研究の成果を発表し、積極的な討論に参加した。一方この期間に四十五のシンポジウムがセットされ、各専門分野での重要なテーマがとりあげられた。私の今回の最大の仕事は、

中で胃がんが最も多い日本は、胃がんに關しては診断も治療も、そして研究でも世界をリードしている。それ故にこの問題の解決をわが国に依頼してきたのである。幸いにして、日本の胃がん研究会を中心にして、胃がん患者の全国登録調査が実施されているので、その資料から得られた胃がん患者の治療成績をもとに、現在ある三つの国際分類を比較検討した結果を報告し、問題解決のための大きな拠りどころを提供したのである。その治療成績は世界中でまず抜けて良く、検討された症例数は五千八百例という他の追隨を許さないものであったので、この難問の解決を望んでいる各国の学者の期待に応えることができたと思つてている。といつても、今回のがん会議で目的が達せられた訳ではないが、今後のアメリカの分類の委員との接触の段取りをつけることに成功したので、恐らく近い将来には胃がんの国際的分類は意見の統一が得られるであろう。

# がんと胎児蛋白

国立がんセンター病院  
細菌免疫検査室医長

向 島 達



最近、がん研究のなかで、注目されてきたものに、胎児蛋白がある。それは、がん細胞と正常細胞との差を検討していくと、差として存在するものは、いずれも、胎児期のものに関連していることが判つて来たからである。現在、胎児蛋白を取り出し、その測定系を用いてがん診断を行なう試みが、世界各国で行なわれている。ところで、この種の研究は、古くより行なわれており、現在、論文として価値あり、且つ最も古いものとして、一九三二年のボーランド・ワルソー大学のヒルツフェルド (Hirzfeld) の研究が

あげられる。それによると、胎児と腫瘍組織抽出物が、免疫学的方法で検討する限り、かなり類似性があるとしている。この時代、免疫化学の方法、蛋白の研究の方法も、未だ、未発達で、詳細に検討することなく終つていた。

ところが、一九六三年に、ソ連の研究者、アベレフ (Abelev) が、動物の肝がんに、胎児期の蛋白が出現することを報告、キチエール (Kithier)、タタリノフ (Tatarinov) 等が、原発性肝がんに、胎児期の蛋白が同様に出現する」とを認め、この事実は、フランス、日本の研究

を伴う腫瘍は、アルファフェトプロテイシンの変動によって、外科的、内科的治療の効果判定に応用出来る。つまり、化学療法を行なったにもかかわらずアルファフェトプロテインの上昇することには、化学療法が効果がないことの判定となり、他方、著しい減少は、効果を示すものである。外科的治療においても、減少率の遅いことは、腫瘍の残余を意味し、再上昇は、再発を意味するなど、極めて臨牀上重要な検査となり、今日各病院において、原発性肝がんをはじめとして、アルファフェトプロテイン産生腫瘍の診断、治療効果判定に応用されている。

他方、血清蛋白以外でもヒルツフェルドの研究を原典として、ゴーリド(Gold)等は、結腸がん細胞の細胞膜分画を抽出し、これを検討しているなかで、結腸がん細胞膜上に、胎児腸管、肺、脾に出現する、彼らの言うがん胎児抗原(Carcino-embryonic Antigen, CEA)の存在するところを見出している。この物質は、名前のようにとく胎児の一つの細胞抗原であるがん以外の疾患とがんとの差は、量が多い少ないかで吟味するから、多くの胎児蛋白の出現は、結腸がん、胃がん、肺がん、脳がんに出現し、若干、その部位の良性疾患にでも出現するが、上手に使用すると、診断、治療効果判定に使用出来るとされて いる。上記二つの物質は、現在、国立がんセンターにても使用され、診断、治療等に役立っている。これら的事実に刺激されて、多くの胎児のがんとの比較研究がなされ、その結果、一九三二年のヒルツフェルドの研究のように、蛋白、酵素、ホルモン、脂肪酸と言った多くのがんに見られる物質で、正常にないと言われる物質は、いずれもがん胎児期に存在するものであるとする成績が得られている。これらの現在知られている胎児期に出現する物質によるがん診断は、今後、益々盛んになるであろう。

がしかし、すべての胎児期の物質が、がんの診断に役立つのではなく、そのなかの一部のもののみが、それに使用されるであろう。そして、いずれのがん診断法でも明らかであるように、正常、あるいは原発性肝がん、アルファフェトプロテイン産生腫瘍に結びつくのに十年の期日を

必要としたことも、アベレフ、タタリノフ、ゴールド等の研究の偉大さを感じながらも、何らかの側面を感じる。

古くより、胎児の研究は、系統発生、比較発生学の対象として研究されて来たが、最近、これらに生理、病態生理の分野が加えられて盛んに研究されている。一見連続している研究も、技術的進歩の他に、時代的な要因などで、夫々にモードがあるように見えて極めて興味深い。

我々が原典としたヒルツフェルドの論文以外にも、もしかするとそれより以外にも、がんと胎児の比較はなされていたのかも知れず、未発表のままで埋もれてしまった幾多の研究があつたのかも知れない。これらの事実の発掘は、医史学者の分野として研究してもらおうにしても、日本でかなり多い原発性肝がんとアルファフェトプロテインの結びつきが、原発性肝がんの少ない国で、文献上最初に行なわれたことは、我々研究している者にとって残念なことだが、（但し、応用面ではかなり進んでいる）。科学の歴史の重

さを感じる。

「がん細胞は幼若である」——この表現を言わせてからすでに久しい。これがやっと形態の場、代謝の場として比較することが出来る糸口になつたようになると感する。この単純な表現に含まれる本質的な意味での解明には、今後かなりの年月を必要とするようを感じる。先人の単純な表現に含まれた重さを、ひしひしと感るのは、單に私だけではあるまい。



# 横顔

## 広明 竹雄

元国立東京第一病院  
研究検査技師長

陶を受けた者は全国にまたがって各地で活躍している。さらに、最近は、化学実験研究班を結成し、理科大学在学・卒業者二十名で自主運営し、技師長の養成に力を注いでいる。

氏はこれまでに、多くの検査術式や機械の開発、改良にも意を尽し、第二、七

回科学技術庁長官賞（昭和三十九年、四十一年）、第一回小島三郎記念技術賞（昭和四十年）を受賞した。

これらの結集は、昭和四十六年、国立東京第一病院研究検査技師長の職を退かれる時、同僚・後輩の人々が、氏の長年の労苦に報いるため記念事業の一つとしての卓越した手腕をあげなければならぬ。それは写真に掲げた「知者不言者不知」「蘇上和下睦何事不成」とい

う貫した信念によるものである。絶えずチームの「和」を考え、不言実行、卒先先行を実践し、今日のすばらしいチームを完成されたのである。

次に、本職以外のもうひとつ的一面を描かねばならない。それは若年の時より好学心、好奇心に燃え、お花、お茶はいうに及ばず、書道、尺八、琴、三味線、古美術鑑賞と、何でもござれの趣味人である。これらの修練が豊かな個性を形成し

て出版した「広明竹雄先生退官記念論文集」に如実に記されている。

すべての人々から「親父」と親しまれ、わが国臨床検査技術史上に輝しい足跡を残された氏は、まさに、さきほど惜しまれて引退したSL機関車にたとえられよう。



廣明竹雄（明治四十二年一月十二日生）  
この人は戦後の苦難な検査技師の道を先頭に立って、多くの優秀な後輩を育成した臨床検査のバイオニアである。すなわち昭和二十年十二月より国立東京第一病院にあって、わが国初の中央検査システム造りに努力し、名技師長としての腕をふるう一方、早くから同好の士を集め研修会を催し、昭和二十八年七月二十五日に第一回の「病理細菌研修会」を開き、すでにその回数は二百数十回を越え全国から受講者が参集している。これは貴重な日曜日をさいての研修のため、眞に熱心な者だけの勉強の場として発展し参加者は三百人を越えるという。この薰

職場においてはチームの人達と、さらに家庭の人々と、「和」をさらに強固たらしめたのである。

氏の信念「和」の基礎となつたのは、昭和二年から六年位の間（十八～二五才）、いろいろな職業の仲間と寄り集り、まず禅問答から入り、時に禅寺で坐禅を組んだり、書、画をしたしなみ、ある時は、雪見酒としゃれこみ、ものを見る心を養つたという。このような環境に生きたこ

とが、人との和を保つことを体得し、人生にプラスになったことは云うまでもない。

最近は、近所の福祉会館において、三ヶ月に一度、老人クラブを作り、二十名位の老人たちに手品の種あかしを教えた。り、書や画を指導されている。次のようなエピソードがある。——ある時、一人のおばあさんのかいた大根の画を選び、表装し、展覧会に出品した。このおばあ

さんが、息子達に内代の世相に春風を吹きこみ、ほほえましいエピソードである。また、家庭においてもこの親父の精神が受けつがれ、お子様達は立派に成人し、本職以外に、多くの趣味を楽しみ、社会にあっては父親以上に活躍し、氏の理想とするチームワークが家庭においても完成されたことを眼を細めて誇らしげに語った。

氏が検査技師三十年を振り返って、これからの世代を負う人達への希望を次のように語った。

「常に研究心をもって、真面目に問題と取り組む。チームワークを自我のために乱してはいけない」。すなわち、「謙虚な態度で学び、職業意識に徹せよ」といふことである。

S L 機関車は消えたとはいえ、広明機関車は、多くの後輩たちの心中に煙をはきつけ、永久に走りつづけるであろうか、おばあさんは余生の楽しみを見出し、大変元気

蘇

とやかく話  
何事か成

竹翁書

三谷

山

## 知者不言言者不知

三谷

三谷

見出し、大変元気

（北岡久三記）

質問コーナー

(9)

☆本号の解答者

国立がんセンター病院  
脳神経外科医長

高倉公朋先生



本号では、脳腫瘍について専門医である高倉公朋先生から、六つの問い合わせて解答していただきました。読者のみなさん、別記の「質問のおり」によって、どしどしご質問をお寄せ下さい。

## 脳腫瘍

問 脳腫瘍はどんな病気で、どの位あるものでしょうか。

(世田谷区、主婦、30才)

答 脳にできるがんと思って頂ければ良いと思います。大きく分

けると脳そのものからできる脳腫瘍と、肺がんや乳がんなど別の臓器のがん細胞が血液と一緒に流れ

て脳にたどりつき、そこで大きくなる転移性脳腫瘍の、二つの種類

があります。脳腫瘍は決して少い病気ではありません。統計的に見

ると、転移性脳腫瘍を別にしても人口一万人に一人、すなわち日本では年間約一万人位の人が年々脳

問 脳腫瘍を早く見つけるにはどうしたらよいのですか。

(函館市、魚業、45才)

問 脳腫瘍は手術で治りますか。また脳の手術の危険性はどうでしょうか。

(神戸市、会社員、50才)

がするものが特徴ともいわれます。脳腫瘍と一口にいっても、悪性のものと良性のものと色々あります。三〇種類位に分けられます。脳腫瘍はおそろしい病気です。肉体とともに心を奪う病気だからです。胃がんや乳がんのよう早く見つけて全部切りとれば治るといふものではありません。腫瘍が消えても喜びや哀しみ、愛する心、働く意欲、創造する力など人間にとって最も大切なものを失っては治療の目標は、まさに腫瘍を治すだけではなく、健全な心を取りもどす方向へと向かって進んでいます。

しかし頭痛も吐き気もない脳腫瘍が沢山あり、これが見逃されてしまうです。てんかん発作といわれるような意識の消失やけいれん、視力が弱くなったり、物が二重に重って見える、耳鳴りがする、めまいがする、歩く時によける、手のききが悪くなったり、しゃべり方がおかしい、精神的に前と違うようだといったような症状は全て注意信号と見ることができます。このような症状があつたら早く専門医の診察を受けましょう。

問 脳腫瘍は手術で治りますか。また脳の手術の危険性はどうでしょうか。

(神戸市、会社員、50才)

脳腫瘍の約半数は良性の脳腫瘍で、脳をおおっている膜からできる髄膜腫とか、耳が聴えなくなる聴神経腫瘍とか、目が見えなくなる脳下垂体腫瘍などがありますが、これらはほとんどが手術だ

けで治ります。今日では脳の手術はきわめて安全になりました。これは麻酔の進歩、脳の脹れを防ぐ手段が著しく改善されたことのほか、手術の際に顕微鏡を使うなどして、ていねいな手術が行われるようになつた為といえましょう。

問 手術だけで治らない脳腫瘍にはどのような治療法

がありますか。（墨田区、主婦、54才）

答 手術だけで治すことのできない悪性な脳腫瘍に対しては、放射線療法、化学療法、免疫療法などが行われます。放射線による治療も次第に改良されて、放射線のきき目を良くするような薬（放射線増感剤）を与えながら照射することによって成績があがつています。制がん剤にも多数あり、特に脳腫瘍によく効く薬が選ばれて使われています。十年位前までは制がん剤を毎日注射するような方法がとられていましたが、制がん剤

は一種の毒薬ですから体の抵抗力を落とす副作用が強くて結局あま

り効果がありませんでした。最近

48才) ょうか。(熊本市、会社役員、

答 原因はまだわかつていませ

ん。しかしながら動物実験ではさまざま

な方法で脳腫瘍を作ることができ

ます。とくに妊娠中の動物にニト

ロソウレアの化合物を注射する

と、たった一回の注射で妊娠時期

に応じて脳の奇形やあらゆる種類

の脳腫瘍ができるからです。ある種

のビールスによって簡単に脳腫

瘍はできます。これらの研究が進

みれば、脳腫瘍の原因や予防法を知

る手がかりが近い将来に明らかに

なると思います。

可能と考えられていた悪性の脳腫瘍患者でも元気に五年の壁を越える人が出て来ました。また一度脳に転移すれば死を待つばかりだった転移性脳腫瘍患者でも治癒しています。制がん剤にも多数あり、特に完全に社会復帰した人が何人も出て来たことは将来の治療に明るい見通しを与えたといえましょう。

答 わが国の脳腫瘍患者に対する対策は諸外国と比較して進んでいますか。（板橋区、脳腫瘍患者の母、34才）

答 個々の治療の研究では進んでいます。しかし国全体として考えた場合には脳腫瘍のみならず、神経系全般の病気に対

のです。ヨーロッパ各國はもとより米国、中国等諸外国には優れた

神經系疾患に対する専門病院があり、診断から治療、リハビリテー

ションまで一貫した治療が施されています。心を大事にする国は脳

の病気を治すことにも力を入れておられます。皆さんの力も合

わせて、心を大事にする国にして優れた脳神経センターができるよ

う努力したいと思います。

質問のしおり

▽がんに関するあらゆる質問を、文書でお寄せ下さい。

字数は八百字以内です。

▽かならず、住所、氏名、職業、年齢を記入して下さい。

▽あて先、東京都中央区築地五の一、国立がんセンター

内「加仁」編集事務局



★ ★ ★

故 今井秀子さん（千葉県  
学校職員）振興会にご寄付

故 今井秀子さん（五十一才）は二十  
数年 の長きにわたり県の職員として勤務  
され、このたび乳がんで逝去されたが、  
自分が、がんにかかった苦しみを痛切に  
知り、在職中の退職金三百万円を令弟・  
今井薰氏に託し、弁護士・今井甚之丞氏  
を立会人として、がんの研究に使用され  
るよう当会に寄付された。



今井氏（右）から、寄付金の贈呈を受ける中原理事



衆議院議員 大久保直彦氏（左）から寄付金  
の贈呈を受ける樺本事務局長

大久保徳一郎氏（六十六才）が食道がん  
で逝去されたため、研究費として使用す  
るよう百万円を読売新聞社「光と愛の事  
業団」を通じて当会に寄贈された。

（読売光と愛の事業団

事務局長 山野辺栄）

現衆議院議員 大久保直彦氏は、実父  
公明党 副書記長  
大久保直彦氏ご寄付

芹澤商会代表取締役  
芹澤 豊氏 ご寄付



右から、芹澤氏、同夫人、榎本事務局長



花菱アチャコ夫人（左）から、  
寄付金の贈呈を受ける林理事

芹澤 豊氏はご令嬢 芹澤由紀子さん  
(二十四才)が日大板橋病院において胃  
がんのため逝去されたので、若い人々の  
がんの研究に充てるよう、百万円を当会  
に寄付された。

がんのため逝去されたので、若い人々の  
がんの研究に充てるよう、百万円を当会  
に寄付された。

花菱アチャコ氏夫人  
ご寄付

花菱アチャコ氏（七十七才）は東大病  
院にて結腸がんのため逝去された。夫人  
の長井愛子さんは、がんのおそろしさを  
知り、当会に多額のご寄付をされた。

日研化学株式会社重役  
故 児玉太満三氏ご寄付

日研化学株式会社重役 児玉太満三氏  
は、胃がんのため、国立がんセンター病  
院において逝去されました。当院のゆき  
とどいた診療、看護に感謝して、研究費  
に使用されるよう、百万円を夫人久美  
子様を通じて当会にご寄付された。

ご寄付受領

国立がんセンター総長、当会理事 塚  
本憲甫先生は昭和四十九年六月七日、転  
移性肝がんにて国立がんセンター病院に

於てご逝去されました、茲に謹んで哀とうの意を表します。このたび、ご令嬢ルリ子様より当会に対し多額のご寄付がありました。

当会に於きましては、国立がんセンター当局とも種々協議し、できるだけ故人のご遺志を永久にしのぶことのできるようなものに有効に使用致したいと考えております。



リ子様より当会に対し多額のご寄付がありました。

福德研磨砥石販売株式会社代表取締役  
續木 定氏は、長女の近子さん（二十五才）が胃がんで国立がんセンター病院で逝去され、当院での手厚い診療・看護に感謝して、研究費にと百万円を寄付された。



### 村田雲南氏 故塚本憲甫先生 のご遺徳をしのび ご寄付

前専売公社總裁 北島武雄氏（六十四才）は、日本専売公社東京病院にて胃がんのためご逝去された。同夫人 北島静代様よりがん治療研究のためにと百万円のご寄付があつた。

このたび塚本哲也氏を通じ、塚本先生が生前よりWHO国際胃がん情報センタの設立に尽力され、遂にこれを日本の国立がんセンターに設立された、そのご遺志をしおび、胃がん情報センター活動のために使用するよう当会に百万円を寄付された。



共栄興業株式会社々長 桑原芳樹氏（七十六才）は国立東京第二病院に於て右腎臓がんのため逝去された。同夫人 桑原千代様よりがん治療研究費に役立てるよう百万円のご寄付があつた。



振興会理事会のシーン

### がん研究振興会 理事会ひらかる

財団法人がん研究振興会では、昭和四十九年度第四回理事会を、三月二十八日

に経団連会館で開催し、左記の議件について審議した。

①昭和四十九年度事業経過報告について

て

②昭和四十九年度収支予算執行見込について

③昭和五十年度事業計画並びに収支予算案について

④募金状況

⑤役員人事、その他について

当日の出席者は、次の方々である。

理事長 藤井丙午、常任理事 花村仁  
八郎、理事 石川七郎、川上六馬、武田  
長兵衛、長沼弘毅、中原和郎、林 弘

呈した。  
ヴィルソン基金による果実は、三富利

夫氏に贈呈することにした。その研究者

名、研究課題等は別表のとおり。



### 第七回がん研究助成金の贈呈



藤井理事長（左）から贈呈を受ける各研究者代表



同贈呈式場の全景

第七回がん研究助成金交付者名簿

氏名	所属施設	研究費 (万円)	研究課題
宇多小路正	財・癌研究会研究所病理部、主任研究員	一〇〇	癌原性、変異原性生物質等による哺乳類核DNAの損傷と修復の細胞学的、細胞生物学的評価の基礎研究
勝俣慶三	慶應義塾大学医学部外科助教授	一〇〇	神経芽腫の免疫学的検索
北村元仕	虎の門病院生化学科 部長	一〇〇	悪性腫瘍産生アミラーゼの臨床病理学的ならびに生化学的研究
木村元喜	鳥取大学医学部ウイルス学教室 教授	一〇〇	ペボーバウイルスによる細胞のトランスフォーメーションの遺伝学的解析
実吉峯郎	北海道大学薬学部 助教授	一〇〇	スクレオンドー5'-リノ酸アナログ及びそのアミド、エステル類の制がん剤としての合成
長尾美奈子	国立がんセンター研究所生化学部 研究員	一〇〇	ワラビに含まれている突然変異原性とがん原性物質に関する研究
長澤弘	国立がんセンター研究所薬効試験部 室長	一〇〇	乳がんの内分泌支配に関する研究——とくにプロラクチン、胎盤性ラクトレゲン、卵巣ホルモンの相互作用とその作用機序について
早石修	京都大学医学部 教授	一〇〇	核蛋白質のポリADPリボシル化と発がん機構
細川勉	東京慈恵会医科大学産婦人科学教授	一〇〇	妊娠ラットにおける絨毛上皮腫の誘発実験、特に腫瘍とホルモン分泌能の関係

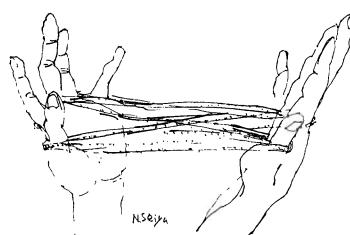
三富利夫	東海大学医学部外科 教授	100	食道がんの合併療法に関する研究
南原利夫	東北大学薬学部 教授	100	乳がん診断を目標とするエストロゲンレセプター測定法の基礎的研究
望月幸夫	東京慈恵会医科大学 教授	100	難治性がんに対する低線量率外部照射及び短期大量多分割照射に関する研究
森武貞	大阪大学医学部 講師	100	glioma における astroprotein (glia 特異蛋白) の研究

## ウイルソン基金とは

### ☆免稅の取扱いについて

ゼロックス・コーポレーションの故 J.C. ウィルソン会長の遺志により、同夫人より当会理事・小林節太郎氏を通じて、昭和四十七年四月十八日当会に一、五〇〇万円の寄附があったので、これを記念するためウイルソン基金と命名し、これより生じる果実を有意義なる研究者に助成するものである。

財団法人がん研究振興会は、試験研究法人としての取扱いを厚生大臣から認可されている財団です。従って、当会に寄付または贊助された金額につきましては法人、個人を問わず免稅の対象となります。また、50・2・12付で、厚生大臣から、相続税免除の法人であることを認められました。その証明書を必要とする方は、当会の事務局までお申し出下さい。





四十八年つづき

当協会に寄付をいただいた方々の芳名をご披露いたします。本号では四十八年のつづきと、四十九年の一部を掲載いたしました。芳名の敬称は省略させていただきます。

財団法人がん研究振興会

神奈川県座間市	山形県鶴岡市	兵庫県加古川市	大阪市
北澤	玉枝	池内	吉田
毎日新聞大阪社会事業団	原 孝子	加藤 順子	公子
東京都世田谷区	阿部 尚好	西村 允子	カリー・神父
広島県佐伯郡	逗子市	安田 悅子	浜本富美子
藤沢市	尼崎市	石橋 政篤	カリー・神父
東京都杉並区	東京都杉並区	西村	浜本富美子
名古屋市	尼崎市	安田	カリー・神父

名古屋市	今治市
名古屋市	ネーサンス・F・ブルックス
東京都目黒区	ジョン・シールズ
渋谷区	越智 良典
川崎市	岡崎 章子
柏市	鈴木 清
川崎市	佐藤 はま志
横浜市	林 早苗
東京都大田区	小口 久雄
新潟県中頸城郡	滝 露
東京都千代田区	横田
台東区	前田 秀
毎日新聞東京社会事業団	田中 良子

横浜市	鎌倉市	東京都千代田区	東京都新宿区	尾道市	尾道市社会福祉協議会	大久保一委	川田
鎌倉市				尾道市		藤井 靖治	冥賀 竹内
横浜市				八王子市		中嶋 克安	凡二 テイ
横浜市				埼玉県上尾市		長坂 昭子	
川崎市				相模原市		大石 富雄	
川崎市				横浜市		後藤真喜子	
八王子市				東京都中野区		原田 美房	
八王子市				板橋区		匿 名	
八王子市				千代田区			
千葉県流山市	世田谷区	杉並区	埼玉県春日部市	宮崎県日南市	東京都杉並区	田中百合子	草間 栄三
千葉県流山市	世田谷区	杉並区	埼玉県春日部市	宮崎県日南市	東京都杉並区	田中百合子	草間 栄三
千葉県流山市	世田谷区	杉並区	埼玉県春日部市	宮崎県日南市	東京都杉並区	田中百合子	草間 栄三

東京都世田谷区	宮田次基男
〃 杉並区	宇都宮 隆
武藏野市	宮崎 康一
東京都千代田区	毎日新聞東京社会事業団
町田市	有賀 正男
大阪市	加古藤一郎
California 94549	Mrs Kathryn B U · S · A Robertson
東京都稻城市	久保田 稔
芦屋市	五十嵐静子
大阪市	毎日新聞大阪社会事業団
東京都杉並区	田辺 芳子
〃 目黒区	清水みどり
神奈川県座間市	山口 イノ
横浜市	芝 房子
東京都世田谷区	清水 康三
奥村 文子	松保 節子
東京都文京区	東京都千代田区

## 四十九年

調布市	石川 栄子
長野市	吉沢 順子
東京都千代田区	毎日新聞東京社会事業団
横浜市	岩田 善雄
鎌倉市	浜野 啓介
松山市	服部 嬉子
名古屋市	二宮シヅ子
西宮市	ジョン・シールズ
名古屋市	南部 英郎
東京都大田区	ジョン・シールズ
千葉市	久貫喜代美
東京都中野区	小島 忠重
千葉市	竹下 静子
東京都中野区	竹下 和子
東京都杉並区	深井 澄久
〃 板橋区	豊田市 豊田工業高等専門学校
神奈川県座間市	内田 晃
横浜市	富山市 富山市
東京都世田谷区	名古屋商科大学
奥村 文子	甲府市 山梨英和短期大学
東京都文京区	和歌山市
横浜市	ジーン・S・ジエラード
東京都千代田区	東海学園女子短期大学

名古屋市	語学教育振興会
東京都台東区	ジョン・シールズ
昭島市	今関やす子
東京都中野区	細井 貞夫
名古屋市	小浜八重子
千葉市	福原 信行
東京都千代田区	ジョン・リック
稲沢市	カリー神父
京都市	シスター・ジーン・シユミッド
名古屋市	ジョン・シールズ
東京都新宿区	深尾 優子
練馬区	満田 裕子
〃 世田谷区	岩淵 好樹
新宿区	笠松 弘通
三鷹市	山下 愛
東京都渋谷区	北山 俊介
名古屋市	小野 明子

東京都渋谷区	小金井市	調布市
川崎市	浦和市	山澤
相模原市	東京都葛飾区	千葉
東京都大田区	鎌倉市	加藤
名古屋市	名古屋市	政次
東京都世田谷区	ジ・ヨン・シールズ	青地
小平市	関根	昭代
京都市	家田	萩野
藤沢市	奥田	来田
新潟市	桑原	三橋
埼玉県所沢市	清野	龍子
川崎市	川上	幸三
東京都新宿区	市橋	一男
春日部市	岩瀬	直
相模原市	昭一	山澤
横浜市	岩岡	青地
倉敷市	延子	昭代
東京都練馬区	下田美智子	萩野
	岩崎	加藤
	江上	青地
	康則	光枝
穂刈喜代子	吉子	山澤

東京都大田区	平塚市	東京都世田谷区	古橋	出島
品川区	岡崎市	東京都豊島区	水野とも子	澄子
千代田区	小金井市	世田谷区	長井 愛子	中内 タイ
毎日新聞東京社会事業団	三鷹市	北島 静代	桜木谷 隆	水野とも子
東京都杉並区	千代田区	相沢 乙彦	伊勢谷次郎	古橋
読売新聞光と愛の事業団	新宿区	大久保直彦	宮本 幸子	出島
津浦久成正	品川区	松尾玉兔子	神野 義雄	中内 タイ
後藤 啓	清瀬市	宮本 幸子	志津 正行	水野とも子
伊藤 啓	川崎市	神野 義雄	秀子	古川
大田区	東京都世田谷区	志津 正行	正行	熊谷
中野区	東京都目黒区	秀子		
岡山市				

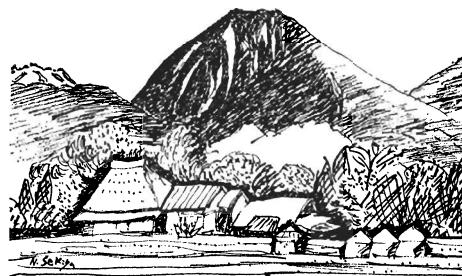
東京都江戸川区	根本 明洋
京都市	シスター モリン
春日井市	藤林 政子
名古屋市	林 葉子
秋田市	ジョン・シールズ
東京都大田区	和田伸一朗
板橋区	匿 名
茨城県稲敷郡	橋本 進一
川崎市	小島 フサ
東京都千代田区	竹内 久枝
毎日新聞東京社会事業団	
中央区	福岡 文子
品川区	石井 康祐
厚木市	龍谷 光三
東京都世田谷区	長田 兵衛
中野区	直樹
練馬区	晴美
堺市	大平美智子
秋田市	聖靈女子短期大学
名古屋市	ジョン・シールズ
Chicago Ill. 60614 U.S.A.	

東京都練馬区	菊地
目黒区	森 静子
港区	伊東 恭子
北海道檜山郡	浪 森
東京都板橋区	高野 富澤
豊島区	児玉 正一
調布市	戸田 善隆
東京都中央区	菊地 明石
大田区	コマ 治雄
千代田区	宮川 児玉
大田区	山崎 菊地
千葉県山武郡	中里 明石
東京都北区	和恵 治雄
今井 待鳥	実子 和夫
小島	東京善意銀行
豊島区	龟井 和美
静岡県富士宮市	和美
貿易研修センター	東京善意銀行
名古屋市	ジョン・シールズ
東京都千代田区	鈴木 元義
豊島区	元義
東京都練馬区	小島 実
港区	堀田とし子 笹山 良子 小布施公子

横浜市	平塚市	川崎市	有賀ちの子
東京都江東区	鎌倉市	港区	福田 博
広島県福山市	江東区	神田 学忠	青木 秋次
東京都品川区	岐阜県大垣市	木下紀美江	村田 雲南
名古屋市	名古屋市	續木 定	加藤 雪
町田市	江東区	ジヨン・シールズ	斎藤 功
東京都千代田区	岐阜県大垣市	村瀬千代子	
町田市	名古屋市	木下紀美江	
東京都練馬区	東京都千代田区	續木 定	
尾道市	東京都千代田区	ジヨン・シールズ	
武藏野市	町田市	村瀬千代子	
東京都練馬区	埼玉県入間郡	木下紀美江	
尾道市	栗本 真明	續木 定	
佐藤陽太郎	大野恒太郎	ジヨン・シールズ	
兵庫県西宮市	沢 千代子	木下紀美江	
多賀 雅雄	佐藤陽太郎	續木 定	
佐藤陽太郎	山陽スコット(株)	ジヨン・シールズ	

東京都足立区	高島 節子
〃 中野区	村上 哲夫
市川市	鈴木 静江
神戸市	安宅 弘和
東京都台東区	豊橋市
〃 港区	明石市
	茅ヶ崎市
	東京都目黒区
	千葉市
	武藏野市
	東京都中央区
	熊本市
	西宮市
	大阪府枚方市
	相模原市
東京都杉並区	名古屋市
熊谷市	武藏野市
三鷹市	東京都杉並区
	本間京太郎
木村 常吉	根岸 秀
	東京アメリカンセンター
	夏目誠一郎
	児玉愛子
	高島 節子
	村上 哲夫
	鈴木 静江
	安宅 弘和
	豊橋市
	明石市
	茅ヶ崎市
	東京都目黒区
	千葉市
	武藏野市
	東京都中央区
	熊本市
	西宮市
	大阪府枚方市
	相模原市

府中市	馬場 幸吉
東京都杉並区	谷 詳子
鹿児島市	武山 信常
神戸市	児玉久美子
浦和市	中原不二男
秋田市	小出 和夫
東京都杉並区	島田 貢吾
〃 新宿区	佐々木可津子
国分寺市	新田 孝子
大阪市	高岡 昇
東京都杉並区	塚本 修平
昭島市	高瀬 久子
東久留米市	安宅 武一
朝霞市	川野啓二郎
東京都杉並区	工藤しおぶ
世田谷区	赤根 瞳夫
	西川 澄子



## 国公立がん診療施設

T E L

国立がんセンター 東京都中央区築地5-1-1 (03-542-2511)

### 地方がんセンター

- 国立札幌病院 札幌市白石区菊水四条2丁目 (0122-81-6161)
- 宮城県立成人病センター 宮城県名取市愛島塙手字野田山47-1  
(02238-2-3151)
- 山形県立成人病センター 山形市桜町7-17 (0236-23-4011)
- 新潟県立ガンセンター 新潟病院 新潟市川岸町2-10 (0252-66-5111)
- 東京都立駒込病院 東京都文京区本駒込3丁目 (03-823-2101)
- 神奈川県立成人病センター 横浜市旭区中尾町 (045-391-5761)
- 千葉県がんセンター 千葉市仁戸名町666-2 (0472-64-5431)
- 愛知県がんセンター 名古屋市千種区田代町鹿子殿81-1159  
(052-762-6111)
- 大阪府立成人病センター 大阪市東成区中道1丁目3-3 (06-972-1181)
- 兵庫県立病院がんセンター 神戸市生田区楠木町7-13 (078-341-7501)
- 国立吳病院 呉市青山町1-10 (0823-21-6681)
- 国立松山病院 松山市堀之内町13 (0899-41-8148)
- 国立病院九州がんセンター 福岡市南区大字野多目595 (092-54-3231)

都道府県がん診療施設 (既設161)

### 芳 郁 句 会 詠 草

追羽子や年甲斐もなき血のたぎり

羽子の音三つ続かぬ幼なさよ

大氷柱地響となつて墜つ日和

軒氷柱するどく尖り飛驒の坊

受け継ぎし畠打つ愛の鍬さばき

銀閣の枯淡静寂月朧

スマックを他所に街路樹芽吹き急

雪垂氷屋根にのぞかせ貨車着けり

磯馴松潮風春の譜を奏なず

### 選 者 吟

甲斐駒へ牙研ぎ追る軒氷柱

雨宮虹月

北沢麻女

川村章女

新川一栄

小田幸女

池田巨材

遠藤草秋

小路完月

山田しづ女

松原薰水

**財団法人がん研究振興会役員  
評議員名簿** (五十音順)

**☆役員**

会長 岩佐 凱実（経済団体連合会副会長）

理事 林 弘（国立がんセンター運営部長）

事務部長

学界

理事長 藤井 丙午（参議院議員）  
常任理事 花村仁八郎（経済団体連合会事務総長）

理事 堀田 庄三（住友銀行会長）  
理事 三宅 重光（名古屋商工会議所会頭）

赤崎 兼義（愛知県がんセンター研究所長）  
今永 一（愛知県がんセンター病院長）

梶谷 鑑（癌研究会付属病院院長）

理事 芦原 義重（関西電力株式会社会長）  
理事 石川 七郎（国立がんセンター病院長）

理事 矢田 恒久（第一生命保険相互会社会長）  
理事 田中美 涉（三菱銀行会長）

小山 善之（国立病院医療センター病院長）  
相良 貞直（日本対がん協会事務局次長）

島田 信勝（慶應義塾大学医学部名誉教授）  
須田 正己（愛媛大学医学部長）

理事 川上 六馬（元厚生省医務局長）  
理事 木川田 一隆（東京電力株式会社会長）  
理事 小林節太郎（富士写真フィルム株式会社会長）

監事 弘世 現（日本生命保険相互会社社長）  
監事 千田 行信（大阪府立成人病センター所長）

日比野 進（国立名古屋病院長）  
山下 久雄（慶應義塾大学部医学放射線科教授）

理事 佐伯 勇（大阪商工会議所会頭）

**☆評議員**

理事 杉村 隆（国立がんセンター研究所長）

財界

授業

理事 佐伯 勇（大阪商工会議所会頭）  
高橋 吉隆（朝日麦酒株式会社社長）

佐藤保三郎（麒麟麦酒株式会社社長）  
吉隆（朝日麦酒株式会社社長）

理事 武見 太郎（日本医師会会長）  
理事 中原 和郎（国立がんセンター総長）  
理事 安川 寛（株式会社安川電機製作所会長）  
理事 横山 通夫（中部電力株式会社会長）

理事 長谷川周重（日本化学工業協会会長）  
理事 長沼 弘毅（評論家）  
理事 和郎（国立がんセンター総長）  
理事 三浦 懲（株式会社島津製作所会長）  
理事 日向 方斎（住友金属工業株式会社社長）  
理事 安川 寛（株式会社安川電機製作所会長）  
理事 横山 通夫（中部電力株式会社会長）

## あとがき

本号には、塚本憲甫先生追悼記の特集を組みました。がん学者の泰斗である先生は、永年にわたって、広い視野からがんの克服のため指導して来られ、日本はもとより国際的にも活躍されました。先生に関係の深い方がたの追悼文および座談会を組むことができ、関係者一同深くお礼申し上げます。

巻頭言には、創刊以来、毎号欠かさず長沼弘毅先生の玉稿を掲載させていただいています。格調のあるその文章は、格調の高いことを編集方針としている本誌の性格にマッチするもので、編集関係者一同感謝しているところです。その他、今東光氏の「冬瓜の記」、臨床検査のパイオニア、広明竹雄氏の「横顔」、向島達氏の「あしお」と、三輪潔氏の「話題の研究から」、読者の関心の高い「質問コーナー」などを掲載することができます。

きました。

都合により本号では、「加仁サロン」「隨想」「がんセンターめぐり」、「作品紹介」を休みました。次号にはぜひとも掲載したいと思っています。

従来先輩の業績を「あしあと」に紹介して来ましたが、本号からこの表題を「あしあと」に改め、先輩の業績ならびにその後の発展・研究を紹介できるようにいたしました。

本誌の対象としている読者層は、一般の社会人の方がたです。

掲載原稿についても医学上の専門のことながらについては、素人にもわかるように編集するようにつとめています。ソフトな記事をたくさん掲載した「加仁」を、らくな氣持でめぐり、その中から、がんについての「なにか」を知つていただく、というのが、本誌の考え方です。ソフトで、しているところです。ソフトで、しかも格調のある雑誌にしたいといふのが、編集委員たちの一致した

考えなのです。また読者のみなさまの積極的なご寄稿もお待ちしています。編集・発行について、よ

ろしくご支援をおねがいします。  
(榎本)

### 「加仁」編集同人

#### 編集顧問

中原 和郎  
石川 七郎  
杉村 隆

#### 編集主幹

木村禎代二  
高谷 治

#### 〃 委員

市川平三郎  
伊藤 一二

#### 飯塚 紀文

北岡 久三  
笠松 達弘

#### 鶴谷 和男

田中 富子  
仁井谷久暢

#### 三輪 潔

林 弘  
山田 翁

#### 柏本 武志

米山 義雄

### 加仁 第11号

昭和五十年五月二十日印刷  
昭和五十年五月二十五日発行  
定価 三百円  
送料 七十円

#### 発行人 藤井丙午

#### 編集人 高谷治

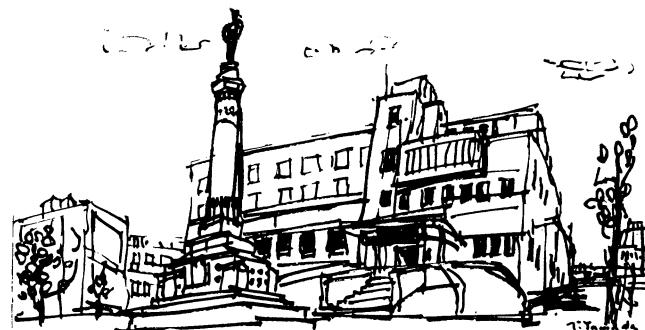
#### 発行所

東京都中央区築地五ノ一  
國立がんセンター内

#### 財団法人 がん研究振興会

電話 (54) 二五一(代表)  
郵便番号 一〇四四号

#### 製作 (株)メジカルニュース社



四

二

第一回

昭和五十年五月二十日印刷

發行人